2100201

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ(Bｸﾗｽ)	1	後期	必修	はい	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」(学科ABの全体94名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「資格取得」が2.1%、「関心」「単位数確保」「GPAアップ」が1.1%であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要 な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定 的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「16、45、28」で94.68%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「6、0」で6.38%、無回答が「0」であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授 業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや 例えは、可能な場合には看護と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は84.50点であり、再試対象者は0名であった。分布的には、90点以上が22%、89～80点が56%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は78%であり、79～70点が20.00%、69～60点が2%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは22%であった。② 98名の学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「13、46、32」と「14、40、36」で 92.86%と91.83%で、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「7、0」と「7、0」でいずれも7.14%であった。アンケートが試験前の実施であるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「9、35、42」と「10、32、44」 で87.76%と87.76%であったのに対し、否定的回答は「11、1」と「10、1」で12.24%と11.22%となった。④ 専門分野でも意欲関心に関する＜意欲＞では肯定的回答は「8、36、42」で87.76%であり、否定的回答は「9、2」で11.22%であった。⑤ さらに専門分野の技能表現に関する＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得では、肯定的回答はそれぞれ「12、28、40」「11、30、42」で83.83%と84· 84%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「15、3」と「15、0」で16.16%と15.15%あった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「10、34、43」で88.78%であったのに対して否定的回答は「11、0」で11.22%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「7、34、41」で83.67%であったのに対し、否定的回答は「14、2」で16.32%であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では7%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ12.24%と11.22%、＜意欲＞も11.22%であり、＜技術＞ 習得では16.16%であった。その他を見ると、＜コミュニケーション、表現力＞の習得では15.15%、＜倫理・規範＞に関しては11.22%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞、及 び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が7%台と11.22%であった。これに対し、課題 を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞、並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答は それぞれ11.22%、16.16%、15.15%であり20%未満に留まった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表見の分野では90%以上か80%台後半、専門と技能表現の分野では80%台であり、授業内容は妥当であると考える。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表見の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考える。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①　AB両クラスの全学生からの担当教員への意見は6件あり、「興味のある科目で、面白かった」「先生の授業ためになりました」「1年間有難うございました」という3件の肯定的なものと、「字が分かりづらかった」という要望的なものが1件と、「難しかったけれど、最初だけわかった」という授業内容の難易度に関するものが1件、そして、難易度ではなく「何が重要かわからない」というものが1件である。授業は、重要事項を暗記し正しい答を選択するという内容のものではなく、「自分の大切さに気付く自己理解」と「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、聖書から「愛」「赦し」「弱さ」「逆説的自由」とは何か等を、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考える授業となるように務めた。学生の意見は、このようなことは理解したうえで、深い意味のある「何が重要か」という問いをくださっているのかも知れない。学生とともに、何が重要かを見出していける授業を工夫したい。「字」については、大きさ、明瞭さなど今後も向上努力を続ける。改善点の1つは、前回の「話が少しわかりにくく感じた」という意見を意識して話したことである。「練習問題の様なものが欲しい」という要望に関しては、授業で確認したところ不要となった。② 学習量の評価を見ると、＜授業の記録＞＜1回30分以上の予復習＞に関しては、向上しつつある。③ 授業の進め方に関する授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」（以下同じ） の順に「16、45、28」であった。＜理解しやすい＞という項目では、「13, 41, 32」で、ただ否定的回答は「8、1」であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「17、40、31」で、否定的回答は「7, 0」であった。中でも否定的な回答が減少しているものは＜参加の機会＞ で「10、1」で、肯定的回答も「11、40, 33」と上方の数字が大きくなった。④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1）記録しない学生への対応として板書の内容をプリントして配布すること、2）予復習の方法を具体的に指示す ること、3）毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」（A4）から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①　授業準備として、学習動機向上のために建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。評価基準の明確性につき6名が「少しそう思わない」と回答した。今回、再試受験の学生が2名いた。この数値は、評価基準とも関係しているかもしれない。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野と は異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の担当教員への意見の半数が肯定的であるのは、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに 学生が学ぼうとしている専門分野なのである。つまり、 この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、＜6．授業の進め方とその向上について＞の④に記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが必要である。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を一層明確にする。授業を進めるに当たっては、板書の内容をプリント して配布すること、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を工夫することが考えられる。

2100500

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機では、「単位数を確保する」を選択した者が大半で、「関心のある内容である」を選択した者は少数である。必ずしも初めから積極的な受講姿勢を期待し難い状況の中で、新聞記事をはじめ、できる限り最新の情報を使いながら、ジェンダーが女性の生き方に係わる問題であることをつかめるように心がけた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は76で、秀・優が約4割、良、可がそれぞれ約2割であった。到達度自己評価では、「事象を理解する視点や考え方を売ることができた」は中央値以上だったが、専門分野に係わる項目では、中央値か中央値を若干下回った。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、総合人間科目の一つで、DP1に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価で、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が中央値以上であったので、内容的妥当性は一応あったと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に関しては、最新の新聞記事も使って、ジェンダーをめぐる今日的諸問題が捉えられるようにした。授業の中で使用したキーワードについて説明させるレポートを課したことは、理解を整理する上で有意義であったが、予習・復習について、学生任せにしたきらいがあり、教員には、課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義を通して、ジェンダー問題について基本的な知見を与える課題は、最低限達成できた。しかし、アクティブラーニングを促す工夫では改善の余地がある。

2100800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	1．アジアの歴史と文化の概要及び達成すべき目標とは、「アジアの自然や地理、民族、言語の導入を再確認し、この地域における国々の制度や歴史、文化などの多方面から、真のアジアを正確に認識すること」である。学生の「受講動機」において、④「単位数を確保する」の77．8%を除いて、③「関心のある内容である」は22．2%であった。この数値はあまり高くはないが、アジアに対する関心があることは大切なことである。　2．授業に関する課題やレポートなどの内容を正確に指導できるよう、また、口頭・文書などの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会を作られるよう、今後工夫していきたい。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	1．最終的な成績の平均値は84．3点であった。そのうち、80点以上は8名、70点以上は1名ということから、標準レベルに達していた。　2．DP-1の【知識理解】をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を習得していた。　3．学生による授業評価においては、「授業に参加するために1回30分程度以上の復習」を「週6回」は6人で、「授業の記録作成で自分なりのノートを作成した」が6人であった。以上から、全体を通してやや目標を達成し、知識理解もやや達成されたといえる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は3．4点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3．2点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は2．7点であった。一方、「授業選択の参考になった」は1．7点であった。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考えられる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	1．授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は3．3点であったが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会がつくられていた」は2．1点であった。次年度は、授業内で授業に関するテーマを学生に発表してもらう時間を確保していきたい。　2．「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」で「していない」は7人であった。授業に関連のあるテーマを指示し、授業外の学習に取り組めるよう促していく。　2．情報・図書館利用はほぼ全員が積極的に利用していた。引き続き、授業と関連している他の知識やデータも重視すべきであることを学生に喚起していきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	アジアの歴史と文化の標準的レベルは、「アジアに属する地域や国々を、正しく地図上で説明できる。また、多様な分野におけるアジアの歴史と文化の特徴を述べることができること」であり、これは達成できていたと考えられる。また、次年度は教師の一方的な授業形式ではなく、学生の意見や質問を取り入れられるような場面を設けていきたい。

2101400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.1（±8.8）点であった。成績分布別にみると、90点以上が14%、89～80点が45%、79～70点が30%、69～60点が11%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、約60%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が30%、「わりにそうだ思う」が48%、「まあまあそうだと思う」が21%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が16～19%、「わりにそうだ思う」が40～43%、「まあまあそうだと思う」が34%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.7～3.8）。 その他、「思考・判断（DP2）」、「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.5、3.5、3.6～4.0、3.6であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。このことは、本実習において、ラケットスポーツの技能向上や自分に合ったペースを見つけるためには、「知識・理解」、「思考・判断」、「意欲・関心」、「態度」のすべてが関係していることを示唆している。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「技能・表現（DP5）」および「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。 今回は該当するDPは、「知識・理解(DP1)」のみであった。しかしながら、ラケットスポーツの技能向上や自分に合ったペースを見つけるためには「思考・判断」や「意欲・関心」、「態度（DP4）」、「技能・表現（DP5）」もまた関係していることから、これらのDPも含める必要性がある。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.5～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外でランニングやジョギングをしていた者や家の中でトレーニングをしていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

2101500

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	後期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	① シラバスについては、本科目の該当DP、授業概要、達成達成すべき行動目標と達成目安についてパワーポイントを用い説明した。なお、試験直前に戸惑わないよう評価法について丁寧に説明した。早期からの講義の振返りを促すため授業の達成目安と評価法は授業回数半ばでも再度説明した。 ② 今年度は国家試験レベルの小テストを7回実施した。学生には評価項目を示したうえで小テストの解説をレポートとして提出させた。併せ形態機能学や疾病学などの参考図書を利用するよう指導した。 ③レポート評価は毎回コメントをつけ返却、また、受講生全員にし評価項目の達成状況を示した。 ④ 理解が難しいと思われる講義内容は、その場で少人数のグループを組ませ互いにディスカッションしながら解決をはかるよう促した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	① 総合評価の平均値は74.4点（100名）、再履修者平均値57.3点(8名）であった。82%の学生が標準的レベルに達し、理想レベル80点以上の学生は38%であった。得点が60点に満たない学生は17%いた。小テスト解説レポートの平均得点は9点／10点と多数の学生が知識習得に向け努力している。しかし、再履修者のレポート平均値は、3点（レポート未提出）と低かった。再履修者に対しては出席、レポート提出および自学を促すなど工夫が必要である。 ②学生の知識理解の達成度は80%で、自由意見より知識の整理は教員が提示したポイントにそってまとめる、また、関連図書を用い調べる（60%)などしている。学生の知識理解の到達度自己評価の平均値は4.1と学生が知識を確認、修正、新たに得ることができたと回答している。思考判断の到達度は75%で、学生の到達度自己評価平均値4.0であった。 ③課題レポートの評価基準は明確に示すよう心がけた。平均値は4.1と学生の評価は良好であった。また、授業中にグループで話し合う機会を設け理解度をあげる工夫をしたためか平均値は3.9であった。時間的制約はあるがこのような機会をつくっていきたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 この科目は看護専門基礎科目で、高校生物から形態機能学、疾病学など看護師国家試験関連科目につなぐために必要な必修科目である。高校生物の基礎学力が低い学生にとっては、学ぶ内容も多く難しい科目と思われる。しかし、1年次で身につけなければならない知識であるため内容としては妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 国家試験必須問題を意識した内容としており、学生の知識到達度からみても内容は妥当であったと考える。昨年度の課題は改善しており、特に思考力は、自学をすすめるための授業課題や学生同士話し合う機会を設けるなどの講義工夫により改善されると思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①「教科書がないので不便だ」との学生の自由意見がある。高校の生物から国家試験レベルの科目（形態機能学・疾病学）につなぐ内容としているため、これを網羅できる1冊の教科書がないこと、そして配布プリントに書き込みすることや関連科目の教科書をひもとくことが、自学し国家試験に向かうための準備であることを学生に説明したい。 ②高校で生物をとってない学生には、高校の教科書を手元において講義内容を確認すること、また、質問する時間を設けているので積極的に質問することを促す。 ③思考判断の到達目標を達成することができるよう、学生に課題を与え積極的に自学するよう促す。学生の図書利用率・インターネット検索利用率は60%、学術データベース利用率は40%であった。学生が努力している様子がうかがえる。次年度も引き続き積極的に学習に取り組むよう促したい。 ④学生の理解度をあげるために「話し合う」機会を設け意見交換をおこなう場をできるだけつくりたい。 ⑤小テストの正解および解説は、講義時間内に行なっている。学生には小テスト解説レポートに自身の手で補足事項を書き込み、あとで復習するよう促したい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生のスタートラインは異なってはいるが（高校までの生物履修状況）、専門基礎科目としての本科目の位置づけから、他の関連科目につなぐために必要な基礎知識はほぼ達成できたと思われる。しかし、欠席やレポート課題未提出など学習状況が低迷している学生については、ゼミ担当教員と連携し教育支援をする必要がある。思考判断力のアップは、図書館の利用を促す、グループで意見交換を行なうなど上記に示した方策により講義改善を行なう。

2102100

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原　充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本授業は、前期の「情報科学演習I」の内容を受けて、ICTの幅広い基礎スキル修得を主目的とした授業である。「情報科学演習I」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、より実務的なデータの活用手法やICTを活用してのプレゼンテーション技法の修得に重点を置いた。また、グループ学習なども取り入れ、グループ活動の中でICTをより有効に活用し、スムーズな活動につなげるための手法にも重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が半数程度に対し、「単位数を確保する」も半数程度となっており、授業開始当初の学生発言からも「前期科目の延長として受講しやすそうである」という声が多く聞こえた。そのため、本科目の位置づけや前期との関連性について説明を行ったが、授業評価ではあまり改善がみられていないことが伺える。前期科目の終了時においても、後期科目への動機づけをしっかり行っておくべきであったと思われる。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.9点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」の学生が46%、その他の学生は「良」である結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。 学生の到達度自己評価でみると、「自分なりの目標を達成した」と「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目において「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が多くの比率を占めており、前期の「情報科演習I」からの継続性を考慮した授業目標を達成できていると考えられる。 しかし、その他の項目では「まあまあそうだと思う」が若干増えてきており、看護学科という特殊性を考慮すれば、もう少し専門分野を意識させる授業内容の構成が必要であったと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報科学演習I（必修）」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報科学演習I」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTするキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えらえられる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 専門分野と絡めた質問項目に対して、「まあまあそうだと思う」が若干増加傾向にある。看護学科という特殊性から、授業内で扱う素材や課題内容等も専門性を意識させる内容を組み込んでいく必要がある。また、基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせてどのように活かしていくかとうい点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、専門分野と絡めた質問項目に対して「まあまあそうだと思う」が若干増加傾向にある点は課題を残した。看護学科という特性を考慮し、扱うデータや課題内容等に専門性を意識させる内容をどのように取り入れていくかについては、次年度に向け検討していきた。 また、授業以外での如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外では全く取り組まれておらず、十分な結果を残しているとは言えない状況である。これについも、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、検討したい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。しかし、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのか問う点では、学生に十分な実感を持たせることがでず、改善の余地を残した。 以上から、専門職を意識させる取扱いデータや課題内容の改善を図っていきたい。

2102400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」69.3%、「単位数を確保する」25.3%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭II種が必要であることから、看護学科の大半の学生が履修したと思われる。後期開始前に国会で成立した「安全保障法制」をめぐる憲法解釈の問題や、2016年度から選挙権の年齢が18歳に引き下げられることを念頭に置き、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深いことを伝えることに腐心した。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	どちらともいえない	どちらともいえない				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	後期試験の平均点は64.39点、再試対象者は3名であった。また、設問がやや難解だったか、理想的レベル（80点以上）に達した者は0名であった。知識理解を文章で論述してもらう問題形式であったが、基本的な知識の理解がやや不十分な答案が散見された。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」がともに3.6であった。。他の数値も多くは3.1−3.5の間にある。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考える。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.4であり、レジュメ作成等の努力がある程度報われていると思われる。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.0とやや低い。これについては、看護学科・栄養学科同時開講のため、履修者が多数になることから、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。また、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.1であった。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「ノートにまとめた」「国会議事堂に見学に行った」を行っている学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「必要がなかった」「他の教科を優先したため」「取り組むべきものが見当たらない」という意見が散見された。これについては、予習・復習の具体的な仕方について、今後の講義で説明していきたいと考えている。学生の意見として、「あまり触れる機会の少ない憲法のことをわかりやすく教えてもらい楽しかった」「講義を受けて、今の日本の政治に危機感をもった」との意見の一方で「何が大事なところかよくわからない」「自分の考えばかりをおしつけてきて、授業というより洗脳みたいだった」との意見も見られた。大事なところが分からないのは学生の受講態度や予復習にも左右されるので、学生の自覚にもよるところが大きい。また、大学の講義では教員の主張がある程度出るのはむしろ当然である。「洗脳みたい」との意見は全く心外であり、もしそう感じるのであれば、どうして担当教員がそのような批判をしているのか、様々な文献や資料を読んで学習したうえで、積極的に学生のほうから教員に疑問や反論をぶつけてほしいと考える。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方策を検討したいと考えている。

2102901

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ(Aｸﾗｽ)	1	後期	選択必修	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	指導、説明内容を毎回全て動画に収録した。学生のレベルを考えて説明ポイントを絞り込んだ。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」,「学習到達度の自己評価」,「学習量の評価」,「学修のための情報利用」,「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講学生数50名のうち、90点以上13名、80点以上18名。再試験対象学生もおらず、全員単位認定。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	妥当。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	動画による授業進行は概ね好評であった。但し、教員サイドから見て学生の理解度を直接知ることが難しかったので、内容に関する質問をすることでその部分を補ったが、CALL教室では学生とのやりとりが少し行いづらく、例えばアクティブラーニングプレイスで、全員がタブレット端末で授業を受けられると、その問題が解決できるかもしれない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	自分が書いていないシラバスに則って、順調に授業を進めることができた。アンケートには授業の進め方に関して感謝の言葉もあった。

2103100

リフレクションカード　2015年度後期

学科	看護学科
氏名	阿部　弘

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅳ	2	後期	選択必修	いいえ	5

2．観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①看護学科選択科目であるが、受講者の受講動機は「関心のある内容である」と「単位数を確保する」に分かれていたが、後者の方が多かった。 ②「英語Ⅲ」には看護学科・栄養学科の受講生がいたが、「英語Ⅳ」には看護学科生だけの登録であったため、内容も看護寄りの準備ができた。 ③火曜日３時限目の授業であったが、授業開始のほぼ10分前には教室に行き、体制を整えた。 ④使用テキストは「英語Ⅲ」の時と同様、「英語でさるく」（Wandering through English」を読みながら、受講生の教養力を身につける準備に着手した。すなわち、テキストに注釈がないため、毎回受講者向けの詳細な注釈を作成し、授業の理解を得る努力をした。この準備には毎回３～４時間を要した。 ⑤上記テキスト以外に、副教材資料として、「医療用語日英対照表」を用いて、医療用語に関する英語の語彙を増やす準備をした。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①5名の受講生の中で、秀1名、優2名、可2名という結果で、良が出なかったが、目標達成度は上々であった。 ②到達度自己評価の10項目においては、ほとんど④の「わりにそうだと思う」に集中していた。 ③授業の質評価の5項目では、5名中4名は、上記同様④に集中していた。 ④予習においては、3名が2、3回、2名が0回であったが、復習においては後者が1名に減じた。 ⑤授業の課題以外の学習に2～3回取り組んだ者が2名で取り組まなかった者は3名であった。また、自由記述への記載は無かった。 ⑥情報利用に関して、シラバスを参考にした者は2名、参考にしなかった者は3名であった。 ⑦あらかじめ授業の計画を立てた者は0名となっている。 ⑧授業の進め方と大いに関係するが、図書館利用項目に関しては、ほぼ全員、利用していない。

5．DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本教科は「総合人間科学」の中の一つで、看護学科2年生の選択科目（1単位）である。また、総合人間科学の「文化と宗教」「心身と健康」「環境と情報」「国際社会と現代」のどの領域にも関連するテキストとプリントを用意した点において、内容的には妥当であると思われる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 看護学科DP1-1の「豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている」に関しては、テキストの内容が多くのグローバルな時事問題を含んでいるため、本項目の内容を満たしていると考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価における(1)～(5)の各項目においては、すべての項目で、「わりにそうだと思う」が4名、「まあまあそうだと思う」が1名の割合であり、方向性は正しいと考える。 ②自発的学習量においては、30分以上の複数回の予習は3名、0回は2名、複数回の復習は4名、0回は1名と出たが、絶対数が5名のため、参考としたい。 ③情報利用に関しては、シラバスの記載を参考にした者が3名、しなかった者が2名であった。また、授業の計画については、誰も立てていなかった。 ④図書館利用は、項目(3)でインターネットのホームページを参考にした者が1名いただけで、項目(1)・(2)は全員利用していなかったのは、学科の専門教科とは異なるからではないかと推測する。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①受講者5名中、2名は「可」にとどまったが、3名は「優」以上(内1名は秀)の結果を残したため、達成状況を「やや達成された」と評価した。 ②欠席回数は、無欠席2名、欠席1回2名、欠席3回1名となり、ややばらつきが見られたので、次年度は出欠に注意を払いたい。

2103301

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B(Aｸﾗｽ)	1	後期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	This course continues to focus on oral communication, specifically speaking and listening skills. The textbook was Interchange 1 (Cambridge), which included functional and grammatical targets in a variety of contexts. The students engaged in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績(トータルの成績，行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差，S，A，B，C，Dの度数)，独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」,「学習到達度の自己評価」,「学習量の評価」,「学修のための情報利用」,「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria (passive participation 30%, active participation 30%, homework 20%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in oral communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 80-89 range.

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	Students showed progress in their interest and attitude towards English. Students are almost always quite eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in real world contexts. The specific skills acquired were functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic life skills. As a result, students acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	My main goal for the next academic year will be to successfully transition the Nursing Departments to a medical English-oriented curriculum. This will include integrating relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Creating assessment tools to encourage acquisition of medical vocabulary for use in medical situations will require a strong vocabulary component. This will be achieved through weekly assessment and blended learning opportunities. Vocabulary use will be solidified through frequent role-plays and group exercises involving basic grammar and appropriate medical vocabulary.

2103700

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングルⅡ	1	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	初級レベルの語学力をつけるのがこの講義の目標であり、前期の「ハングル1」に引き続き受講する学生がほとんどであるため授業動機が「関心がある内容のため」が最も多いのも頷ける。 また講義内容の節目に小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	平均成績は78.85点であり、再試験対象者もいなかった。 また到達度自己評価の全項目にわたり平均値が学科平均より高い。また「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.3であることからしても所定の成果を得られたと思われる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみての内容の妥当性 多くの学生がシラバスを参考に受講を決め授業の質評価でも学科平均より高い回答が得られたことから、授業が当初の計画通り進み、学生たちの満足度が高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみての内容の妥当性 教材を用いた予習・復習には時間を割く他にK―popなど自分が興味があるもので学習に取り組んだことが担当教員への意見で分かる。シラバスに明記しているように「積極的な姿勢での授業参加」ができたことが分かる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。教材を用いる学習以外のも各自好きな方法で学習を進めているので問題ないと思われる。これからも学生たちが積極的に学習できる素材を紹介しようと思う。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。これからも韓国語と韓国の文化への理解を深められるよう工夫を重ねていきたい。

2110200

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	菊田 彰夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	① 形態機能学では分析的で系統的な学習をもとに，総合することが求められる。形態機能学では，構造名を覚えるのではなく，対象の構造と機能を理解することに重点をおいている。理解を深めるとき，自らが問題意識をもつことを求めている。 ② 最初の講義であり，暗記に頼らない学習方法を説明した。 ③ 講義1回毎に，重要事項の確認のための小テストを実施し，理解状況を自己確認するようにした。 ④ 昨年度には授業の改善計画を立てていない。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された	やや達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	終講試験の平均値は64.8(±11.4)点であり，再試対象は35名であった。最終的には2名を不合格，その他を合格としたが，知識量，理解度ともまだ不十分なものが多い。次年度からは，終講試験の難易度が受講学生に周知されてくると思われるので，理解度の上昇を期待している。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は専門基礎科目」であり必修である。看護の対象である人について，その構造と機能を理解することはもっとも基礎的なことであり，これを自覚し，自ら深めることが求められるが，単位修得のみを目標としているような学習態度の学生が少なくない。修得が求められる知識量は多く，また複雑であり，講義の聴講および教科書の自習を，問題意識をもち，自覚的，自発的に実践していかなければならない。試験結果からは目標の達成度は高くなかったが，講義内容は妥当である。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	講義中，声が小さく聞き取りにくかったとの意見が多数あった。今年度からは，適宜，音量の適否について確認しながら講義をすすめることとした。 配布資料の一部を，白紙化し，聴取事項を，学生が書き込む形式の資料を増やし，能動型の講義を取り入れることとしている。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門基礎科目であり，基礎的知識の形成が重要であるが，自発的学習がないと十分な成果は得られない。知識の習得が，専門家として必修であり，責任があることの理解が進めることが課題である。

2110300

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康と栄養	1	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①授業評価アンケートの受講動機の回答では、「必修である」という理由が100%で、「内容に関心がある」と答えたのはわずか1名であった。看護学科の1年生の「栄養」に関する関心は低いと思われるので 、「栄養」についての知識がまだ十分でないことを前提に、一般的な「栄養学」の概説と、専門分野の導入科目としての医学・医療に関連づけた「栄養学」を念頭において講義した。「栄養学」の基本となる基礎栄養学、食品学、臨床栄養学の分野をそれぞれ専門とする三人の教員によるオムニバスの講義として実施した。 ②授業の最初に学習準備のためのオリエンテーションとして、シラバスの各項目について説明し、授業計画表を配付した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終成績の平均点が、74.8±7.9点で、担当者間の平均点のばらつきも大きくはなかった(基礎栄養76.2、食品75.4、臨床栄養72.6)。S（90点以上）が3名、A（80～89点）が24名、B（70～79点）が47名、C（60～69点）が26名で、D（60点未満）はいなかった。理想的レベル（90点以上）を超えたものは全体で3名と少なかったが、標準的レベル（70点以上）に達したものは71名と、全体の70%を超えていた。昨年と担当者が変わっているので（3名のうち2名は同じで1名が新しく加わった）単純に比較はできないが、平均点（昨年：71.2±11.7点）がやや上がり、内訳についても、成績上位者は変わらないが成績下位者が減少した（昨年：秀3名、優24名、良30名、可33名、不可9名）。 授業評価アンケートにおいて、到達度自己評価の関連項目（8以外）の平均点が3.4以上であったこと、「自分なりの目標を達成した」の項目で「まあまあ達成した」レベル以上を回答した学生が80%以上であったことより、教育目標は達成できていると考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は看護学科の教科のなかで“専門教育科目”の「看護を学ぶための基礎」として位置づけられ、必修科目である。特に、生活習慣病や栄養補給などとの関連において臨床の現場における「栄養」の重要性について強調している。学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当だと思われる。 ②DP、行動目標から見た妥当性 授業準備にも記載したように、看護学科の1年生に対する講義科目であるため、「栄養」に関する基礎知識の習得と理解を目標としているので、内容的には妥当であったと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①昨年度の授業評価の自由記述で、複数の教員で講義するため授業のやり方が異なる点が問題として指摘されていたが、今年度は各教員の最初の授業で受講のためのオリエンテーションを行い、同一教員による5回分の講義をなるだけ連続して講義するようにした。また、配付プリントのサイズなど、統一できるところはできる限り統一するようにしたが、まだ、学生の間ではとまどうことがあるようなので、更に、改善したい。 ②DPの項にも記載したように、本科目は「栄養」に関する基礎知識の習得を目標としているので、授業評価の指標4（学生の授業参加の機会）については、時間的制約もあって、授業の中に取り入れるのはかなり困難であるが、授業内容についての質問などを受け付ける方法については、今後、改善していきたい。 ③講義する内容の多さに比し授業時間が限られているので、集中して受講してもらうため、授業中の私語は十分注意してほしい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①本科目の目標である、「栄養」に関する基礎知識の習得については、おおむね達成できた考える。 ②「栄養」に関する広範囲な内容を短時間で講義することになるので、どうしても、一方通行の講義になってしまうが、できる限り、授業中に質疑応答ができるようにしたい。

2110400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	近江　雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	臨床栄養とは、傷病者のさまざまな病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理を行うことであり、病院で実施される栄養管理は、チーム医療を基盤にして行われるものであることから、看護師として、臨床栄養の基本を理解しておくことは必須である。本科目では、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。 本科目は卒業必修科目であり、全学生の受講動機は「必須科目である」との理由であった。また、学修準備性については、約半数の学生がほとんど準備をせずに受講し、受講後の復習も十分でなかった。また、自発的学習に取り組んだ学生においては、全体の4%と大変少なく、いずれの理由においても、学生は多忙を極めていることに加え、他科目の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は85.5（±7.5）点であり、本試験合格者は100%であった。実際には、15名(15%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は80名(82%)にも上った。試験内容としては、全て講義内容からの出題であり、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答していたことから、学生の到達度の高さが実際の成績へと結びついたものと推察される。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。入院患者の栄養管理はチーム医療のもとで実施されており、近年、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師の専門性を発揮することが求められている。つまり、患者の生活を視野におかなければならない看護師にとって、臨床栄養の知識は必須であるといえる。このことは、学生の達成度自己評価の「職業選択」の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、臨床栄養の知識が看護師にとって必要であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、試験成績においても、大多数の学生が好成績を修めていたことから、内容的妥当性については問題ないものと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師としての専門性を発揮することのできる能力を養い、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。大多数の学生が好成績を修めており、また、学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答していたことから、本科目の内容等についての問題はないものと考える。

2110600

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	学生は1年生であり、医学用語を初めて学習するため、きるだけ平易な説明をした。 毎回シラバスを確認、教科書の進行度合を説明した。授業終了時には予習を促した。 キーワードのノートを毎回チェックし、書写を促し、また漢字の説明をした。 パワーポイントのプリントは国家試験に沿うように画像を多く紹介した。 キーワードのノートを使って予習をしていた学生も25％ほどはいた。これを使って復習したという意見もあった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	約95％の学生が期末テストで合格点を獲得できた。得点も自然な分布をしている。学習量については、時間がなかった、余裕がなかった、忙しい、手が回らないなどの意見が多く、長時間の学習が困難だった状況が想像できた。ただし、各種の形式で作成した期末試験問題には満遍なく答えられていた。課題以外に学習に取り組んだかについて、必要なかったからという意見が2件あり、授業だけで理解でき試験も心配なかった優秀な学生がいた可能性もある。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は臨床の土台となるような重要な科目であり、国家試験でも多くの試験問題と関連する。必須科目とし、客観評価を行って不合格者も再試験や再履修で理解度を高めることが必要である。内容として妥当と考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	難しかったという意見があり、例えばノートを作る、図を書いて理解させるなどの働きかけが必要な学生がいたかもしれない。先輩の勉強方法を伝えることもやってみようと考える。学生からの質問わ見当たらない。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度としては良いレベルに達したと評価している。ただ、教科書は大事な点のまとめにすぎず、実際の病人に対応するには全くレベルが異なる。実習、演習、講義の学習組み合わせで自分のレベルを測定するよう促したい。

2111100

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	疫学・保険統計学は人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病 の予防やコントロールを行おうとする学問です。社会医学の基礎であり、臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing（根拠に基づいた看護）を行ううえで疫学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも関連する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計」を使用して基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の最初の15～20分は前回の復習にあてるようにしました。 「保健統計学」の授業では、疾病頻度の指標、保健統計調査、スクリーニング、統計学の基礎について解説しました。保健師業務には必須の内容であり、保健師コースを選択しない看護学生にも大切な内容であることを強調しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	期末試験の平均値は80.3点（最高98点）であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが100名中59名でした。一方、60点未満は5名でしたが、再試験で全員が60点以上でした。このように学生間で成績のばらつきはありましたが、最終的に全員が標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、ほとんどの項目において9割前後の受講生が「ままそうだと思う」以上の達成感を回答しています。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での勉強、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートをみると、「説明は理解しやすかった」に8割以上の受講生が「わりとそうだと思う」以上の回答をよせていますが、学生参加や質疑応答の機会については評価が低い傾向にあります。このことは次年度に向けた課題と考えます。 また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生は四分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとも少数派でした。受講生が興味を持って自ら勉強するような課題を出したり、予習復習のポイントを明示するなどを工夫をするべきだったと反省しています。 自由記述で「授業中に手を動かす作業がもっとあった方が良い」という意見がありました。次年度から取り入れたいと思います。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 次年度は、もう少し学生参加型の授業形態を取り入れるようにしたいと思います。

2111200

リフレクションカード　2015年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野　嘉延

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学	1	後期	必修	いいえ	100

2．観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	疫学・保険統計学は人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病 の予防やコントロールを行おうとする学問です。社会医学の基礎であり、臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing（根拠に基づいた看護）を行ううえで疫学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも関連する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計」を使用して基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の最初の15～20分は前回の復習にあてるようにしました。 「疫学」の授業では、疫学の歴史と疫学研究について解説しました。疫学研究の知識は看護研究でも必要であり、保健師コースを選択しない看護学生にも大切な内容であることを強調しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。

4．学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	期末試験の平均値は79.2点（最高100点）であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが100名中46名でした。一方、60点未満は4名でしたが、再試験で全員が60点以上でした。このように学生間で成績のばらつきはありましたが、最終的に全員が標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、ほとんどの項目において9割前後の受講生が「ままそうだと思う」以上の達成感を回答しています。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。

5．DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での勉強、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートをみると、「説明は理解しやすかった」に8割の受講生が「わりとそうだと思う」以上の回答をよせていますが、学生参加や質疑応答の機会については評価が低い傾向にあります。このことは次年度に向けた課題と考えます。 また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生は四分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとも少数派でした。受講生が興味を持って自ら勉強するような課題を出したり、予習復習のポイントを明示するなどを工夫をするべきだったと反省しています。 自由記述で「授業中に手を動かす作業がもっとあった方が良い」という意見がありました。次年度から取り入れたいと思います。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 次年度は、もう少し学生参加型の授業形態を取り入れるようにしたいと思います。

2111700

リフレクションカード　2015年度後期

学科	看護学科
氏名	谷川　弘治

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床心理学	2	後期	選択	いいえ	33

2．観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	2年配当科目であることから，看護師に必要な心理支援の基本を身につけることをねらった。 本年度の受講生は32名（昨年度51名）で選択者が4割減少した。 8コマと短期間であるため，昨年度と同様にすべての基本資料を第1回目に配付し，昨年課題となった基本資料とパワーポイントとの整合性は改善させた。 臨床看護における患者理解に焦点をあてながら論じていることもあり科目に対する関心や学習意欲は高い。昨年度，なじみのない概念，混乱しやすい概念として「リフレーミング」「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」などが特定できたことから，説明範囲を部分的に焦点化した。 「質問・感想・意見」を毎回回収しⅰ質問への回答，ⅱ学習を深める上で参考となる感想や意見をまとめたプリントを配付した。また，意欲・関心に関するDPとして得点を配分した。

4．学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	アウトカムは平均点67点（昨年度71点）であった。 学生の授業評価の関連項目（下記）も学科平均に近かった。 ①自分なりの目標を達成：3.4（看護学科平均：3.5） ②DP1-2関係：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.8（同3.7） ③DP1-2関係：事象を理解する視点や考え方を得る：3.5（同3.6） ④DP2-1関係：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.5（同3.6） ⑤DP2-1関係：自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力：3.4（同3.6） 以上から教育目標は「概ね達成」と判断した。

5．DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけについては問題ないと思われる。内容的には時間が不足する点を検討する必要がありそうである。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	毎回の「質問・感想・意見」には，簡単ではあれ，さまざまな質問や意見が書き込まれていた。また，学生の授業評価において「口頭，文書など，何らかの形で学生の質問を受け付け，それに答える機会が作られていた」は3.8（看護学科平均3.5）より若干高めであった。以上の背景として，「質問・感想・意見」に記されたものの中から学習を深めることにつながる質問や意見，独自性の高い質問や意見を選定しプリントで紹介，点数にも反映させた。このことも質問や意見を書くことの動機づけとなっていたと推察される。 「授業の質」に関する学生の授業評価の中で，看護学科平均よりも−.3以上低いものは， ⅰ「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」3.3（同3.7）， ⅱ「授業中に，自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会が作られていた」3.0（同3.4）の2項目であった。 ⅰについては，最初に資料を渡していたので，予想外であったが，おそらく試験対策を行わなかったことがあげられる。ここは改善の余地がある。 ⅱについては，アクティブラーニングの要素を入れるには8コマでは少なすぎるため，実施してこなかった要素である。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業参加者については概ね目標を達成したと思われるが，さらに参加度を高める工夫を行いたい。 ①「質問・感想・意見」の評価の周知を図る ②試験対策の導入 看護師には必要な知識と技術であるため履修者を増やせるように関係者と連携をとりたい。 また，看護学科にはカリキュラム改定にあたって時間数増の検討をお願いしたい。

2111800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	医療と関係する倫理的諸問題を講義した。国家試験にも必須問題で出題されることがあるのでポイントを押さえるよう注意した。 毎回シラバスを説明して講義を開始した。 できるだけ現実の事例を引用して講義を行った。 毎回講義で扱った問題について議論を促し、具体的な作文を課し、配点した。結果をフィードバックした。 パワーポイントのプリントは文字を厳選し、画像を多く紹介した。いくつかの教科書を紹介した。 大教室だったが、集中するように促し、学生の注意は途切れなかった印象である。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された			達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	講義後に講義の内容の応用問題を出題し解答させた。この結果、ほぼ全員が毎回講義内容を誤解無く理解していた。作文も内容や形式でレベルを保っていた。得点分布は自然であった。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	この科目は選択科目である。医療倫理は国家試験にも必須問題で出題されることがあるが、「看護倫理」が必修なのでまず取りこぼさないように思われる。選択科目で5限目の授業であるが64％の学生が受講し、強い動機で参加したと考える。内容として妥当と考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	最後まで学生の注意力が落ちず、授業の進め方としては成功していたと思われる。質問に丁寧に答えたと評価してくれる学生の意見もあった。倫理の場合、勉強の仕方がわかりにくいのではないかと思われる。参考書は膨大な数あり、大著であったり、内容も極めて高度であるものが多い。しかし、教科書にちょうど良いものが無いのが現状である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的には成功していると考える。これからも倫理判断が必要となる良い事例を探すよう努力したいと考える。

2112100

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎学習ゼミⅡ	1	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	基礎学習ゼミに係る教員間の共通認識，学修支援の方向性として、 1. 大学で主体的に学ぶための基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）を強化・鍛錬する有効な機会となるようにする. 2. 社会人基礎力(前に踏み出す力・考える力・チーム力）の育成・強化を意識しながら関わる. 3. グループ活動を通して，学生が自らを客観視したり，自身の在り方や行動を振り返ったりする機会となるようにする. 4. 他者と良い関係を築くうえで必要となる自らの態度・姿勢・行動について，必要な行動変容につなげられるように支援する. 5. 大学での学習・生活スタイルの確立を目指す. 6. 学生自らが問題解決を図る適切な手段・方法を見出せるように支援する. 以上1. ～6. を大切と考え，授業を企画・運営した.

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・当該科目の成績評価は，授業参加度(16%)，記録物(24%)，学修成果（観点別評価60%）による総合評価としているが，今年度は，秀13名，優65名，良22名，可0名，クラス平均 83.2点と，標準レベルを大きく上回っていた. ・受講動機は，前期「基礎学習ゼミⅠ」と同じく，当該科目が「必修科目」(100%)のため，学生は履修せざるを得ない．従って，学生の「資格取得に必要」（4.4%）「関心のある内容」（2.2%），また「単位数を確保する」（4.4%），「GPAをあげる」（2.2%）等の認識は低かった. ・到達度自己評価では，「知識を確認，修正したり，新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」が高かったことから，初年次教育として位置づけた「基礎学習ゼミⅡ」で目標とした内容は概ね「達成された」と考えた. ・授業の質評価においても，「テスト，レポート，提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかだった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に，自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会が作られていた」が高かった．この結果から，学生の主体的学修を促そうとの教員側の取り組みや働きかけは，学習目標の達成に繋がったと考えている. ・履修後の学生は，「ディベートのやり方，ディスカッションする力，グループワークを学べてよかった」，「グループのみんなと話し合って意見交換ができ楽しかった」「自分なりに，いろいろ頑張ってできたと思うし，進んで発言するようになれた」「大変だったけど，座学では学べないことをたくさん学べた」「チームで協力することはもちろん，考える力が身につき，これからに役立つ力がとても身についた」「ドリームマッチに出れて嬉しかった」「話す時に，いかに論理性が大事かなどを身にしみてわかった」等の記述を残していた．これにより，当該科目で「学生が達成すべき行動目標」として示した内容，即ち，知識理解，意欲関心について，学習目標は「達成さ

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	・受講動機については，前述したように，初年次教育の一環として位置づけた当該科目は「必修科目」(100%)であり，学生に選択の余地はなく，好むと好まざるとに関わらず受講せざるを得ない. ・到達度自己評価は，「知識を確認，修正したり，新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が高く，当該科目の学習目標の達成を裏付ける妥当な評価ではないかと考える. ・学生の自由記述においても，「ディベートのやり方，ディスカッションする力，グループワークを学べてよかった」，「グループのみんなと話し合って意見交換ができ楽しかった」「自分なりに，いろいろ頑張ってできたと思うし，進んで発言するようになれた」「大変だったけど，座学では学べないことをたくさん学べた」「チームで協力することはもちろん，考える力が身につき，これからに役立つ力がとても身についた」「ドリームマッチに出れて嬉しかった」「話す時に，いかに論理性が大事かなどを身にしみてわかった」等の記述が多く、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」とした内容との整合性がある.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	・前期の学びを実践に活かす，また，社会人基礎力（前に踏み出す力・考える力・チーム力）の育成・強化を図る機会として，授業では「ディベート・マッチ」を企画・実施した．学生の準備状況を考慮し，テーマ及び定義については教員側で準備・提示することとした． ・10～11名のゼミグループの学生を，5～6名ずつ「肯定派」「否定派」の2グループに分け，試合準備のためのグループ学習活動を軸に授業を展開した． ・毎回，学生は当日の学習目標の達成に向けて主体的に行動し，調べ学習後の情報提供，意見交換においても，殆どの学生がグループ学習活動に積極的・意欲的に参加していた．調べ学習を進める上での図書館の利用頻度も非常に高かった． ・グループ学習活動の途中で，ディベート・マッチに必要な知識（ディベートとは，ディベートの4つの構成要素，試合の流れ，審判及び判定基準など）を付与するための①全体講義と②看護学科LMS（Kaname.net）を活用した反転授業を組み入れた． ・授業8回のうちの後半2回を「ディベート・マッチ」とし，試合は対戦相手を変えて2回実施した．その目的は，①第三者（審判）の評価をもとに試合内容を客観的に振り返る機会をもつこと，②次の試合に向けて論旨・論拠の修正・補強に努め，論理構成力を高めることだった．さらに,試合の際，聴衆の学生にスマホでのビデオ撮影を依頼し，グループの振り返りの客観的資料として活用した． ・授業最終回には，「肯定派」「否定派」のベストグループによるドリームマッチを実施，クラス全員がモデルを通して相互に学び合う機会を設けた．この試みは，試合を行った学生，聴衆・審判となった学生のいずれにも好評であった．

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・当該科目の成績評価は，授業参加度(16%)，記録物(24%)，学修成果（観点別評価60%）による総合評価としているが，今年度も受講生（1年生）100名全員履修を修了した．成績の内訳は，秀 13名（13%)，優 65名(65%)，良 22名(22%)，可 0名，クラス平均点は 83.25±5.42点（最高 98点，最低 71点）であった． ・毎回の授業（ディベート・マッチに向けての準備）にいきいきと楽しげに取り組む学生たちの様子からは，初年次教育として位置づけた「基礎学習ゼミⅠ」及び「基礎学習ゼミⅡ」の1年間の学修成果として，ここでの目標は「達成された」と考える． ・次年度は，授業の展開方法について，テーマ，講義内容の精選等を含めて検討したい． ・今後の課題として，効果的な学習準備の整え方について，①予習時間の確保、②予習課題の効果的な提示方法、③学生が興味をもって自主的に予習に取り組めるような工夫・仕掛けについて、具体的に検討し，さらなる質の改善を図りたい．

2112300

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護理論	1	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①1年前期には看護専門教育科目は看護学概論、看護技術論の2科目のみで、後期に看護理論となり、学生にとってはかなりハードルが高くなると思われる。受講動機を見ると、「関心のある内容である」は2.1%にとどまっている。そのことを踏まえ、前期看護学概論において、ナイチンゲールの看護覚書を読み、看護に少しずつ関心が出てきていると思われるので、まず導入はナイチンゲール理論とし、理論を理解しやすいように理論が生み出された背景（社会的・医療・看護等の状況）等を交えて解説するようにした。 ②理論は1コマ1理論とし、できるだけ簡潔にまとめ、実践への活用を考えさせ、わかりやすくした。各講義の最後に、まとめとして学生が関心を示すDVD教材を使用し、講義で扱った「理論」の解説を視聴させた。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は72点であり、再試対象は5名であった。概ね標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上）に達した者は20名と約1/5で、まだ限られていた。 目標別にみると、知識理解に関してはおよそ7割、思考判断に関してはおよそ8割であった。 学生の到達度自己評価においては、知識理解に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」項目平均値はともに4.0であり、思考判断にかかわる「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において的確に判断する力を得ることができた」項目平均値はともに3.9であり、成績評価と合わせて考えると、概ね目標は達成したと考えられる。学生の学習量において、予習復習をしていない学生が半数（40%）、自発的学習も7割がしていない状況がある。しかし、図書館で本・雑誌を利用したり学術データベースを検索利用した学生も少数（8-15%）ではあるがいる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目-看護実践の基本」であり、看護学すべてにかかわる基盤的な内容であり、必修である。1年次でやや難しい側面もあるが、学生は一定の成績を収めており、内容的には妥当であると考える。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 学生の到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」において4.0の評価となっており、成績評価においても7割以上はあり、内容的には妥当である。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	看護理論のDVD教材について、どの理論にどこまで活用するかについて、学生に難しい部分もあるので検討をしたい。図書の利用が15%と少ないので、さらに理論への関心を広げていくために文献の紹介を具体的にしていき、復習および自発的学習の時間の拡大につなげていきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「看護実践の基本」という本科目の位置づけから、基本的知識の形成には概ね達成できたが、一部やや不足気味の学生もおり課題である。1年生ということを考慮し、内容の精選、平易な説明に引き続き取り組んでいきたい。

2112400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護倫理	2	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	1年次に半数弱が「医療倫理」を受講しており、倫理に関するベースは約半数はあると考えられるが、受講動機において、「関心のある内容である」を選択した学生は4%であった。学生の関心を高めるために、時事的な倫理的課題にかかわるニュース、身近な倫理にかかわる事例等を講義の初めに取り上げ、学生の意見を聞くようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績評価の平均値は74.3点であり、再試対象は5名であった。多くは標準的レベルに達したが、理想的なレベルに達したものは27名であった。 学生の到達度自己評価において、知識理解にかかわる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「知識を確認、修正したり、新たに学ぶことができた」において平均値3.5、3.4であり、思考判断・態度にかかわる「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」において平均値3.4であり、概ね目標達成されたと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目−看護実践の基本」であるが、すべての看護にかかわる基盤的内容であり、近年特に重要性が増している科目であり、「必修科目」である。臨地実習が基礎看護学実習だけしか済んでいない状況で、医療現場における倫理的課題のイメージがわきにくいが、学生の到達度評価からみても一定の評価が得られており、内容的には妥当である。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 学生の到達度自己評価からみても一定の評価が得られており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業課題以外に学習に取り組んでいない理由に「何をすべきかわからない」との記述があったので、講義の中で具体的に示し、図書の利用（14%）、自発的学習（25%）の割合を大きくしていきたい。 倫理的課題に関する学生たちの意見交換、全体での発表について、今年度活発な状況が見られたので、さらに学生たちが意欲的に取り組めるよう検討していきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	基礎的な知識理解について、達成できないごく一部の学生があったため、課題を残した。この点については、講義内容を精選し、より平易な説明をするよう改善を図りたい。また、内容の精選を行うことで、授業中に課題について学生たちがデスカッションする時間を増やすようにしたい。

2112600

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活援助技術論	1	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目の看護実践の基本にあたる日常生活行動を自分では行えなくなった人への援助について学ぶ科目である。 そのため、各単元を学ぶ基本的前提として、学生自身の日常生活行動を振り返ってもらうことを予習課題や授業の説明などに取り入れて想起させている。そのことを基本に、どのように援助していけばよいか、また声をかけていけばよいか、といった具体的な援助とそれに関連する必要な知識の習得を行うようにした。 学生の受講動機としては、「必修科目である」ことを全員が選択している。1年前期の「看護技術論」に引き続いて、具体的な生活援助技術を学び始めるという点において、学生の動機づけは高いと考えている。そのため、授業資料などは、可能な限り、前回の時までに配付し予習ができるようにした。また、科目授業回数の終盤には、関連の国家試験問題を配付し、学生の学習意識を高めることを目指した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された			達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は、73.8±9.1点で再試対象者は6名だった。再試験では、6名中1名が欠席、5名が受験した。受験した5名の平均得点は76.5点だった。最終的な評定の内訳は、秀3名、優24名、良40名、可32名、不可1名で、評価内容に対しては偏りがなく概ねバランスが取れていたのではないかと考えている。 目標別にみると、本科目は日常生活行動を援助する看護技術の演習を含む科目であることから、必要な知識理解を筆記試験で問い、技能表現を実技チェックで確認した。態度については、演習課題の提出や授業中の発言や質問、取り組む姿勢といった授業貢献度を総合的に評価した。授業に取り組む姿勢や演習課題の提出を守る学生が95%程度で態度としての評価は高い。反対に、5%の学生が態度の評価が若干低く、これらの学生の筆記試験や実技試験の結果とは相関している可能性があった。つまり、日頃の授業中の学習姿勢や演習課題の提出状況などを踏まえながら、知識・技術の定着を促すような関わりをすることが今後の課題である。今年度は、知識のまとめとして、生活援助技術論に関連した国家試験問題を自己学習できるように配付した。配付の時期と解説内容を今後も検討していく予定である。 学生による授業評価については、到達度自己評価で概ね80%以上の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、客観的評価である成績と学生の主観的な達成感が相関しているものと考えている。理由として、学習量の自己評価の中で予復習実施率が高く、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生の割合も高かったことが挙げられる。今後は、学術データベースを活用した図書館の利用なども視野に入れ、学習の充実を図っていきたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」のなかの看護実践の基本にあたる必修科目である。このことは、受講動機で全員が選択していることから認識は高い。 今後、さらにシラバスの活用などを呼びかけ、予習や復習を積極的に行いながら、知識や技術が深めていけるように促していきたい。 内容的に妥当性は確保できていると考える。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価及び学生の到達度自己評価の両側面から見て、妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目の5段階評価は、平均4.2～4.3と高い評価を受けた。理由として、各回に実施する授業内容から授業目標を具体的に提示したことや可能な限り、事前に資料の配付や課題を提示していたことが挙げられる。一方で、この科目は、約100名の看護技術演習を含むため、その演習運営においては、学生自身の自覚と理解、行動が、学習成果に影響を及ぼすと考えている。この点で、本科目を履修した学生たちの多くが、学習内容と学習目標をしっかりと意識して学習してくれた成果とも受け取っている。 授業評価の中での自由記載では、教員の指導の統一を願う意見が聞かれた。授業に参加する複数の教員とは、演習前後の打ち合わせと振り返りを行い、次回につなげているが、指導方法の統一までは現実的には困難である。しかし、これら学生の意見を参考に、何を優先的な指導内容にするか、ここで学生が押さえるべき看護の原理原則は何かについての共通認識をより一層意識して取り組んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、専門教育科目の看護実践の基本にあたる日常生活行動を自分では行えなくなった人への援助について学ぶ科目である。 学生の多くは、そのことを認識して、積極的に学修をしていることが成績評価および学生の到達度自己評価からも確認できた。今後も、引き続き、国家試験対策を加味しながら教授していきたい。 また、複数の教員が関わること、他領域の教員の協力も得ていることから、指導内容の共通認識をこれまで以上に意識して、学生の混乱などがなく学習しやすいよう環境を整えていきたい。

2112800

リフレクションカード　2015年度後期

学科	看護学科
氏名	小田　日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヘルスアセスメント	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	ヘルスアセスメントの授業にあたっては，以下1. ～5. を大切と考えて，日々の授業を行っている. 1. アセスメントの前提となる知識の理解はもとより，看護の対象の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術（バイタルサイン測定技術など）を確実に習得できるように支援する. 2.「生きている」ための機能に係る主な器官系（呼吸器系・循環器系・消化器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する. 3.「生きていく」ための機能に係る主な器官系（感覚器系・脳神経系・運動器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する. 4. 看護の対象を身体的側面のみならず，心理・社会的側面からも総合的に理解することの必要性とその見方・考え方を理解できるように支援する. 5. 演習（技術習得の過程）を通して看護者役割を演じる自己を客観視し，看護者に望まれる姿勢・態度について考える機会とするとともに，期待される行動変容に繋げられるように支援する.

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・成績評価は，筆記試験(60%)，実技試験(25%)，課題レポート及び学習貢献度（15%）による総合評価としたが，今年度，秀 3名(2.9%)，優 20名(19.6%)，良 40名(39.2%)，可 30名(29.4%)，不可(再試験該当者) 9名(8.8%)で，クラス平均も72.5±9.67点(最高 95点，最低 43点）と，平均点は昨年度より良かったものの，評価のばらつきが大きかったため，全体としては「標準レベル」で，各目標の達成状況は「やや達成された」とした. ・受講動機は，当該科目が「必修科目」(100%)のため，学生は履修せざるを得ない状況にある．その中で「資格取得に必要」(8.2%)との認識はあったが，「GPAをあげる」(2.0%)，「関心のある内容」(1.0%)，「単位数を確保する」(1.0%)等の意識は低く，学習量の評価からは，学生の「精一杯だった」「時間がなかった」「出された課題しかやれていない」「どうしていいか分からなかった」「忙しかった」などの記述と併せて，毎回の授業（演習）をこなすことで精一杯，あるいは必死だった学生の様子が窺えた. ・到達度自己評価は，殆どの項目で平均値が中央値を上回っていた．特に「知識を確認，修正したり，新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は高く，次いで「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」，さらに「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」と続いた．これらの結果から，教員側は客観評価としての総合評価を「標準レベル」と判断したが，受講した学生は，自身の目標達成度を教員よりも高く評価していると思われ，また，そのことが学生の「もっと頑張ります」との前向きな回答に繋がったとも考えられた.

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	・学習準備性として，当該科目が「必修科目」であること，また，一部学生は「資格取得に必要である」ことの認識も持っていることから，学生は「自分なりの目標をもって」授業に臨んでいたこと，受講後「自分なりの目標を達成した」との達成度自己評価，さらに客観評価としての総合評価の結果より，DPから見た科目の位置づけや当該科目の学習目標の内容妥当性，及びその概ねの達成は裏づけられたと考える. ・学生の自由記述からも，アセスメントの前提となる知識の理解のために「復習した」り，「わからないところを読み直した」り，ノートの「まとめ」をしたり，また，看護の対象の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術を確実に習得できるよう，「ビデオ・動画」を見たり，「実技の自己練習」に実習室、自宅を問わず「練習」に主体的に取り組んだ様子が窺え，学生は提示された「学生が達成すべき行動目標」の達成に向けて，自己努力を惜しまずに取り組んだことが推察され，教授内容として，学生の準備状況に応じた妥当な内容であったと考える.

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	・学生102名を対象に，対象の身体状態を把握するためのスクリーニング技術（バイタルサイン測定技術），「生きている」ための機能に係る呼吸器系・循環器系・消化器系，「生きていく」ための機能に係る感覚器系・脳神経系，運動器（筋・骨格）系のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得を目指して，講義・デモンストレーション・技術演習の流れを基本とする1単位 30時間（2コマ連続 8回）の授業を展開しているが， 1単位 30時間の枠内に納めるにはかなりボリュームのある内容であり，加えて，バイタルサイン測定技術については実技試験を実施するため，学生にとってはかなりハードな科目と言える． ・演習では，基礎看護学領域助手3名を中心に毎回2～4名の応援（助手・助教，ピアサポーターとしての4年生）を配し，学生個々の技術習得への支援を行ってきたが，学生102名の技術習得を確実なものとするには限界もあり，個別の手当てが十分には行き届かないことへのジレンマもある． ・上記を補足する手段として，今年度より，学生の自主学習強化と技術習熟度向上を目的に，例年同様の授業中の自作「看護技術手順書」に基づくデモンストレーションに加え，看護学科LMS（Kaname.net）を利用した学習支援のための学習ページを開設した．結果として，実技試験は102名中 78名(76.5%)の合格で，昨年度101名中 77名(76.2%)とほぼ差はなかったが，筆記試験については，今年度のクラス平均 72.5点が昨年度のそれ（69.9点）を約3ポイント上回っており，LMSの利用が学習強化に繋がったのではないかと考える．但し，学習量，情報利用，図書館利用については，「予習・復習時間」「自発的学習」「情報利用」「図書館利用」などの点で課題を残しており，今後の改善が必要と考えている．

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・当該科目の成績評価は，筆記試験(60%)，実技試験(25%)，課題レポート及び学習貢献度（15%）による総合評価としている．今年度，秀 3名(2.9%)，優 20名(19.6%)，良 40名(39.2%)，可 30名(29.4%)，不可(再試験該当者） 9名(8.8%)で，クラス平均も72.5±9.67点(最高 95点，最低 43点）と昨年度よりは良かったが，全体としては「標準レベル」，各目標の達成状況は「やや達成された」と評価した． ・到達度自己評価では，殆どの項目で平均値が中央値を上回っていた．特に「知識を確認，修正したり，新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が高かった．「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」，さらに「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」のいずれも高値であった．これらの結果から，教員側の総合評価「標準レベル」の評価以上に，学生は，自らの目標達成度をより高く評価していたと思われ，その思いが，学生の「頑張り」に繋がっていたのかもしれない． ・課題については，学習量，情報利用，図書館利用に関する評価を振り返り，①「予・復習時間」の確保と効果的な使い方，②「自発的学習」を促すための具体的方法・仕掛けづくり，③「情報利用」「図書館利用」が増すようなすような工夫と改善をテーマに，今後検討・改善を図っていきたい．

2113300

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は,看護の必須科目であり受講動機も100%必須科目と解答をしている。また、この科目への関心は8．5%と低く、まずは関心を持てるような工夫が必要と思われる。 学生の準備性としては、小さい子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいため子どもの成長発達なども、具体的な数字や例を挙げ、また出来るだけ視聴覚教材を使って説明した内容と実際が関連づけられるような工夫を行った。また、今回は,北九州市の事業の一環として「赤ちゃんふれあい授業」を活用する機会に恵まれたため、学生たちに映像とかではなく、実際の子どもや母親とふれあうことでより子どもへの理解の一助として授業に組み込んだ。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は83.4点であり、再試対象者は0名であった。60点台(可)が5名であったが、80点以上は64名（秀：23名、優：41名）と64.6%の学生が理想的レベルに到達していた。 概論では、知識理解に関する修得割合が高く、覚える部分が多くある。知識理解に関して78%と標準レベルには達しているが、理想レベルにはあと少しである。これは勉強不足もあると思われるが、単に覚えることが多いというのでなく実際の映像や子ども達の状況と結びつけながら,繰り返し確認していくというこちら側の働きかけも必要であると考える。思考判断については、90%以上であった。これは,試験の内容がレポートの内容と重なっていたため高得点になったと考える。学生の自己評価では、知識理解の修得より,思考判断が難しいとしており、講義中の具体的な例の提示、あるいはレポートなどのフィードバックを丁寧にやっていくことで根拠に基づいた判断が出来るような工夫がさらに必要と考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方を学ぶための教科となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は7名と少なかったが、一定の成績を収めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識理解は78%、思考判断は90%以上と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において，「授業中に自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会が設けられていた」が他の評価項目と比較してやや低かった。子どもに関する新聞や雑誌の記事を取り上げ、近くの学生たちと話し合い、発表する場を設けたが、もっと細かく他の学生と話し合う機会を組み入れるような授業の組み立てを考えていきたい。学生の意見として、赤ちゃんとのふれあい授業で,小さい子どもと母親に接する機会があったことで今後の学習をイメージしやすくなったとの意見があった。このような機会を今後ともできるだけ取り入れていきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の入り口にあたる本科目の位置づけから，基礎的知識の形成については概ね達成できたが，思考判断の面では課題を残した。この点は概論の後にある小児看護方法論へとつないでいくことで、知識理解、思考判断を強化していくことが出来ると考える。 また、子どもの理解に実際の子どもとのふれあいを取り入れることが可能な限り、今後も計画していきたい。 授業では、他の学生との話し合いの時間を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を増やしていきたい。

2113400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護方法論	2	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は,看護の必須科目であり受講動機も100%必須科目と解答をしている。また、この科目への関心は11%と低いが、小児看護学概論の授業の時より関心を持って臨んだ学生が増えている。。 学生の準備性としては、時間割上は小児看護学概論と同時進行になっているが、子どもの理解がある程度出来た上で、その子どもたちが健康障害を受けた時の看護を考えていく方が理解しやすいと考え、先に概論を進め、概論が終了した後方法論を開始するように方法論上工夫をしている。小さい子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいため学生にとって、病気のこどもや病棟内に暮らしている子どもの姿は想像しにくいと考えられるため、視聴覚教材の活用をできる限り取り入れている。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は78．9点であり、再試対象者は0名,追試が1名（病欠のため）であった。60点台(可)が5名であったが、80点以上は45名（秀：1名、優：44名）と50%の学生が理想的レベルに到達していた。 成績評価では、知識理解に関して76%と標準レベルには達しているが、理想レベルにはあと少しである。思考判断については、82．4%であった。方法論では,グループワークを取り入れており、グループメンバーの構成によっては、個人的にはまだ十分思考判断力が付いていなくてもグループの成果物としてのレポート評価が良いために個人の全体評価がやや高くなることも多少影響していると考える。しかし、全体としては試験の解答でも86．8%と思考判断については理想レベルに達している。、学生の自己評価では、知識理解の修得より,思考判断が難しいとしており、患児の状態のアセスメントを事例を挙げながら適宜組み込んでいくことで、判断の根拠を確認していき理解をしやすくなると考える。講義後は、わからないところなどの質問を挙手で、あるいは毎回配布する質問感想表に書いてもらうことで具体的に学生の疑問に答え,難しいと感じているところわからないところを補足説明をしているが、学生が参加する機会が全くないと答えている学生もいるため、フィードバックを丁寧にやっていくことがさらに必要と考える。 意欲関心については、学びを深めたいと意欲を持つ学生が多く、この先演習や実習まで持ち続けられるよう繋げていきたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方や子どもの成長発達といった特徴を学んだ後、さらに子ども達が健康障害を受けた時にの看護を学ぶための教科となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は11名と少なかったが、一定の成績を収めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識理解は76%、思考判断は82．4%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において，「口頭、文書など,何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」で1名、全くそうでないと思う学生がおり、ほとんど毎回質問感想表を受け渡しをし、学生の質問には口頭あるいは文書で゜答えてきたつもりであったが、まだ十分答えられていないと感じている学生がいるということかもしれないので、出来るだけ口頭のみでなく、文書で回答することを徹底させていく必要があると考える。講義形式のみでなく課題を与えグループワークを入れることで、図書館の活用やグループ内での議論から、いろいろな意見・考え方を知ることが出来,学生としては、いい学びになっていると考える。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の方法論を学ぶ本科目の位置づけから，基礎的知識の形成については概ね達成できたが，思考判断の面では特に自己評価としての課題を残した。この点は講義の中で判断の具体例を出来るだけ多く取り入れることで、知識理解、思考判断を強化し、次の小児看護学演習での事例を用いた看護過程へと繋げていくことが出来ると考える。 授業では、病児や入院生活等がイメージしやすいように視聴覚教材の活用を継続し、また他の学生との話し合いの機会を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を増やしていきたい。

2113700

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	後期	必修	はい	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	単位取得及び国家試験を目指すために必須の科目である。2学年であり、大学生活に慣れたところで興味を示す学生と苦手意識をもつ学生がいるため、授業をどのように行うと到達目標を達成するか検討しながら準備にあたった。 ①受講動機は、解答者全員が「必須科目」を挙げ、「資格取得に必要」が1割であった。。「関心のある内容」については極少数で母性看護についての興味関心が薄く、母性看護実習をイメージできるような事例を提示し、女性の健康問題や、自分自身の心身に関することや将来の自己を考える機会となるよう問題提起をおこなった。 ②授業の開始時にシラバスの説明を行い、毎回の授業後に授業に対する要望・感想・質問等を記述し提出するようにした。次回開始時に再度重要な部分の補足と、質問への回答を資料と共に配布した。しかし、すべての質問に回答する時間的余裕はなく、授業中の質問を期待したが難しかった。 ③学生数が多いため、学習の理解度が把握しにくかった。次年度は小テストを入れ学習の理解度を把握していく。 ④達成度評価の最も高い知識・理解への課題達成に向けて国家試験問題についても解説し資格取得に向かう学習の内容や方法を講義する。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は72.7（±9.2）点であり，再試対象は5名であった。ほぼ全員が標準的レベルに達したが，再試対象者には再度学習指導を行い確認後試験に臨み学習を深めることができた。理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは23名、うち90点以上に達したのは5名であった。 知識理解に関しては平均値42点/60点満点、思考判断については、平均値21点/30点満点、関心意欲については、平均値9.8点/10点満点と、約7割を超えていた。 知識理解、思考判断、関心意欲の問題作成を明確になるよう工夫して行うことが課題として残った。 学生による授業評価においては，到達度自己評価の「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」では、平均値3.7中央値4.0で最も高かった。授業の質評価では、参加型ではなく講義を聴き知識理解を深めることを優先しているため、全体的に評価が低かったと考える。話し合いや意見発表など学生が参加し、主体的に学ぶ工夫が必要である。学習の予習復習については特に課題や小テストは行っていないため半数程度行っていないと回答した。したがって図書館利用や情報の利用が少なかった。学生が主体的に学習していくよう授業設計の工夫が必要である。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は2年次必須（高一種免（看護）養教一種免）の看護実践の応用・展開の科目である。母性看護方法論と共に位置づけられ、母性看護学演習から看護実践の統合としての母性看護学実習へ進むための重要な科目である。演習、実習に向けた母性看護学概論の目標達成に向けて主体的に取り組めるよう課題への工夫は継続していくが、一定の成績を収めていることから内容的には妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から、知識理解、思考判断共に達成度は約7割が平均を超え、全体の平均値は72.7点であった。学習範囲がひろく、十分理解できていない学生もいたが、再学習することで行動目標を達成できたと考える。内容的には妥当であったと考える。 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方についての自己評価 授業内容の範囲が広く、パワーポイントにまとめ、必要な資料を配布したが、、時間をかけじっくり進めることが難しく、学生は理解しないまま授業を進めていった部分がある。学生の反応や意見を聞きながら必要時Gワークや意見交換の時間を捻出し工夫したい。次年度は知識理解を深めるために事前に説明した後小テストを組み込み学習の理解度を把握し、工夫していく。 学生からの意見では、進み方が早くてわかりにくい、資料（PP）がみにくい、声が聞き取れない、教科書のどこのところかわからない等の意見があった。質問に全て答えることができないため、重要な部分は再度説明することや、PPを必要最小限にし、教科書を主に使用し理解を深めるよう工夫していく。また主体的に取り組み、図書館や情報利用も検討していく。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	単位取得及び国家試験を目指すために必須の科目であり、看護実践の応用・展開の位置づけから、母性看護における基盤となる概念や母性看護の目的、対象の特徴、母子保健、女性のライフサイクルにおける健康問題とその看護について学生が達成すべき目標は概ね達成できた。方法論とともに演習、実習に繋がるよう講義内容の工夫が必要である。（小テスト実施、質問や不明な点の確認時間の確保、わかりやすい資料、DVDの活用等） 講義・演習・実習を通して母性看護や助産師に興味関心を持つ学生が増加している。授業外でも相談・支援をしていきたい。

2113800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機の「必須科目である」100%という結果が示すように、本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が3年生の講義につながっていることを自覚し講義に臨めるように、関連づけて講義内容を説明してきた。 講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、できるだけ重要ポイントがおさえられるように、講義で配布した資料に空欄を作って学生自身が講義中に記入する形式を取り入れたり、パワーポイントに示す資料も文字だけでなく、写真や図などを使用したりDVDなどの視聴覚教材も活用し、学生がイメージ化できるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は75点であった。再試対象は3名であった。 再試うけて全員が標準レベルに達したが、理想的レベルを概ね80点以上として試験を作成し、理想レベルに達したものは34名であった。 目標別にみると、知識理解78%・思考判断65%であり、思考判断では得られた知識を活用しておこっている現象をアセスメンするために応用できるかを問うものであり、周産期にある対象者の実際のイメージ化が難しい学生にとっては理解が難しかったと思われる。関心意欲については、アンケート結果では受講動機の「関心のある内容である」5.6%であったものの、紙面を活用して講義内容に関することや将来の自分に関する問題としての質問や意見などが講義の開始当初から活発にみられ、平均点も9.6点（10点満点）であり科目に関する関心や学ぶ意欲は高まっていったと思われる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、さらに、思考判断については方法的に改善の余地はあるものの、3年生に向けて意識付けはできていると思われ内容的には妥当であると考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価では、約9割の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。しかし、再試験者があったことや半数以上が予習や復習をしていないと回答していることから、日々の学習の積み重ねの大切さを意識できるような働きかけを行っていく必要性があると考える。また、学生から「もっと実習の場面について聞きたい」との要望があり、イメージが乏しいなかで周産期の学習の難しさも推測されることから、今後もより具体的な事例や視聴覚教材を活用し、学生が得た知識を3年生の講義につなげ活用していけるように努めていきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護の実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な基本的な知識理解や思考判断、関心意欲は概ね達成できた。イメージが難しい反面、女性として自分自身の問題として取り組みやすい科目でもある。受講動機では関心のある内容と回答した学生が5.6%である科目だったが、講義を受講することで関心を高め、意欲を持って学習に取り組んでいる姿勢も見られた。「学習量の評価」に関して、授業の予習・復習を1回もしていない学生が半数を占めていたため、引き続き予習・復習のポイントを提示することや講義内容の見直しなど、学生の学習量に反映さることも課題として検討して取り組んでいきたい。

2114200

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	東 玲子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①範囲が広範におよぶ科目であるため、シラバス上で器官・系統別のテーマを具体的に明示した。各器官の障害に伴い生じる共通の症状や看護、各器官で代表的な疾患の具体的看護方法を軸として理解が深まるように講義内容を構成した。また、中間で知識確認テストを行い知識の定着を図った。 ②既習の科目（特に人体の構造と機能，病態生理，薬理，基礎看護学，成人看護学概論など）との関連性が深く、これらの知識を応用・展開することが重要であるため、講義のなかでも復習を目的として既習知識の確認を行ったり、関連性が理解できるように解説を行うことで、系統的な理解が深まるように工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75点（SD±9.7）、理想的レベル（80点以上）に達した者は34名で、再試験対象者は6名であった。再試験の結果、標準合格点に達した者は2名で4名は達成できなかった。平均値、理想的レベルの到達者数はまずまずであるが、全員が標準的レベルの到達に至っていないため、全体として十分であるとはいえない。 学生の到達度自己評価では、いずれの項目もおよそ6割が「まあまあそうだと思う」、およそ3割が「わりにそうだと思う」を占めており、概ね肯定的な評価であったとは言え消極的な評価に止まっていると考える。講義におけるフィードバックにより、学びの達成感が得られるような工夫・改善について検討する必要がある。 学生の受講動機は主に「必修科目である」であり、およそ6割が予習・復習や課題以外の学習を一度も行っていなかった。国家試験においても重要な位置を占める科目のひとつでもあり、予習・復習を活用して確実な知識習得や主体的学習に取り組む姿勢の育成を目指すことが今後の課題である。 以上を総合的に評価すると、教育目標は概ね達成されてはいるが、講義への取り組みに課題を残している。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえつつ、慢性期疾患をもつ患者の特徴をふまえた看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は2名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 平均値や理想的レベルの到達者数などから目標は概ね達成されており、内容的には妥当であると考える。しかし、成績評価から、「知識理解」「思考判断」の達成度が比較的低かったことから今後への課題が残った。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生の受講動機は主に「必修科目である」であり、およそ6割が予習・復習や課題以外の学習を一度も行っていなかった。既習科目の復習を強化することにより、本科目への関心を高める動機づけや、主体的学習への動機づけを積極的に行い、科目の到達度の向上、学生の学びへの達成感を促進するような工夫が今後の課題として残った。 また、ディスカッションや発表の場というような学生の思考を活性化させるような方法が少なかったため、これらを積極的に盛り込んでいきたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目の応用・展開の科目であり、慢性疾患をもつ成人の健康障害に対する看護活動と、QOL向上やセルフケア能力を高める援助のあり方を思考する科目である。目標は全般的に一定の達成度を得たが、「知識理解」「思考判断」の達成度がやや低めであったことから、課題を残した。 既習知識の復習を強化し、本科目への関心を高める動機づけや、主体的学習への動機づけを積極的に行い、科目の到達度の向上、学生の学びへの達成感を促進するような工夫が今後の課題として残った。

2114300

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	村山 由起子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①成人急性期看護方法論は、系統的に疾病・治療に伴う急性期看護を疾病学各論や看護形態機能学3年生前期に履修する成人・老年看護学演習やリハビリテーション看護学との関連性が強く、学生の受講動機では、「必修科目である」が98.9%とほぼ全員の動機になっていた。 ②昨年と同様に、形態機能、病態について小テストや事前学習課題を踏まえて振り返らせ、看護をより理解しやすいように工夫した。 ③急性期と周手術期の概念や特徴的な理論を踏まえて、対象に応じた基本的な看護のあり方を解説した。看護の視点を明確にするために、事例を用いて、アセスメント看護診断を抽出させ、思考・判断の強化を図るようにした。 ④今年度は、特に学生のモチベーションを高め自己学習に発展できるように、課題レポートの内容を吟味した。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75点であり、再試験対象者が4名、追試験対象者が1名であった。再試・追試の結果、全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは29名であった。 目標別にみると、知識理解に関しては76%、思考判断については78%、意欲関心については72%、態度については75%であった。レポートの提出や授業中の講義への取り組みについては、全体を通して、真面目な姿勢で臨んでおり、それが、目標達成に反映されたと思われる。 学生による授業評価についても、知識理解の観点、思考判断の観点、意欲関心の観点、態度において、あまり差がないことが示された。 受講生101名全員が、看護師国家試験を受験する学生であることを考えると、知識理解の評価のアップが課題であり、その点からも看護形態機能学、疾病総論・各論を踏まえた上で、看護に関して強化できるような授業案の改善を図りたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、看護師国家試験に関連する必修科目である。定期試験の結果から考え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価では「知識理解」76%、「思考判断」78%、「意欲関心」72%、「態度」75%とほとんど差がなかった。今後急性期の看護として、特に外科的治療に伴う周手術期の看護及び危機的状況にある患者の看護に対しては知識理解の強化が必要と思われるが、平均値が75点であることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には、問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、9割以上が「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」「まあまあそうだと思う」と回答しており、平均値も3.3から3.6であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。学習量の評価については、ノートを作成したり、まとめたり、プリントや教科書を見直したとの自由記述があったが、予復習時間がまだまだ不十分なことから、課題の工夫に取り組みたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考えるが、知識理解については個人差があり、今後に課題を残した。　また、 看護師国家試験に関連する必修科目であることから、受講動機である「資格取得に必要であること」について、来年度に向けて学生の認識を高められるように検討する必要がある。 授業過程を振り返ってみたとき、事例を通してアセスメント～看護上の問題を抽出させ、解説できたが、計画立案まで検討する時間が取れなかったことから、来年度に向けて改善を図りたい。

2114500

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	新木 眞理子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護方法論	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	前期開講の「成人・老年看護学概論」の老年期と関連させて、この授業では、高齢者の健康障害の看護について具体的に学ぶ。健康障害については、疾病学各論や成人慢性期・急性期で学んだ知識がベースになるため、講義期間の後半は、学生のグループワークによる成果を講義形式で発表する形をとり、その内容を教員が補う形で授業を進め、教員の一方的な講義ではなく、学生の発表能力を鍛えたり、主体的な学習を重んじている。講義期間の前半の授業内容の1つに、老年期に特徴的な認知症の講義を入れているが、認知力の低下により本人自身が、生活のさまざまな、一見ささいなことで不自由さや苦しみを感じていることなどが学生にはイメージし難いため、今年は、DVDを取り入れることとした。実際の患者の発症からサポートを受けながら生活する様子を視聴することで、少しでも相手の側に立って、認知力の低下による課題を考えられる契機とすることをめざした。 臨地実習では、脳卒中や骨折の回復期の高齢患者を受け持つことがほとんどであるため、日常生活における援助技術について、脳卒中後遺症による片麻痺患者のアセスメントからADLの援助を中心にして、授業を行なうことにしている。この内容は、3年前期の「リハビリテーション看護学」の講義と「成人老年看護学演習」のADL技術演習につながるため、その意識づけも兼ねて行なう。 後半の学生による講義形式の発表については、昨年、学生の発表した内容にはあまり触れず、知識の補足をしていったが、理解度が今ひとつであったため、今年は、学生の発表内容の要点の再度押さえをしながら進めることとした。

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は68.9%（±5.9）であり、知識理解に関しては66.0%、定期試験以外の平均得点は85.0%であった。再試験者が10名おり、記述式の回答で、要点不足の記述がめだった。老年看護学の健康障害の領域は多岐に渡り、ベースの形態機能学や疾病各論、成人看護学等の知識がここで再度問われることになるため、修得するためにはかなりな努力を必要とする。成績平均値はそれほど高くはないが70%近い数値であり、学生の目標達成の自己評価においても、ほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしていることから、目標はほぼ達成できたと考える。そのうち、知識理解の面は、思考判断の面に比べると、ほぼ達成されたと考えられるが、思考判断に関しては、定期試験の記述式の回答内容からも、必要な知識を活用して考えるという力が不足していることが伺える。後半のグループ発表においては、グループの個々のメンバーのなかには努力不足の学生も見受けられたが、グループ全体としてみれば、発表内容に関する学習やその修正、スライド資料の作成等、意欲的に熱心な取り組みがみられ、一方的な講義形式のみの授業よりも、意欲・関心は高まったのではないかと考えられる。学生の学習量や図書館の利用について、いずれも半数の学生が準備や復習をしなかった、図書館の本を利用しなかった、と答えていることから、意欲関心はやや達成と捉えた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「看護実践の応用・展開」に必要な科目である。看護を学ぶための基礎、看護実践の基本をベースとして、老年期にある人々の健康障害について理解し、その具体的な援助方法を学ぶことを主眼としており、時期的にも 内容的にも妥当である。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 「高齢者の生活機能を支える看護の要点が述べられる」や「高齢者に特有な症候・疾患・障害のアセスメントと看護について説明できる」という行動目標は、学習内容は多岐に渡るものの、その後の臨地実習や国試に即活用すべき知識であることから、DPの知識・理解の修得に重要なものである。「認知症高齢者の経過に応じて自助能力や潜在能力を伸ばす看護について具体的に説明できる」という行動目標達成には、特にDPの思考・判断が求められ、それだけに難易度は高いが、老年看護を実践する看護者には重要な能力であり、この科目での行動目標としては適切である。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題がないと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価では、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が3.3と最も低かった。これについては、この科目の前、2年前期の「成人・老年看護学概論」で老年看護における倫理的配慮というのは出てくるが、この科目においても、認知症患者の看護等も入っていることから、それと関連した形で、倫理的側面に関する授業内容を強化していきたい。 後半のグループワークでは、学生自らが講義の準備を行なうことになるため、学習量や図書館の利用はもっと多い結果でなければ、主体的学習の効果が上がっていないということになる。前半8回と最終回が講義、後半6回が学生の発表となっているため、学習の仕方にむらがあるとも考えられるが、今後、講義とグループ発表のバランスを同考えるかは課題である。90分の授業時間の中で学生が発表する内容と費やす時間をどう効果的に配分していくか、来年度の課題とする。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	老年看護学に必要な知識面に関しては、3年次の演習や臨地実習に向かう準備としてはほぼ達成できたと考える。 しかし、それらの知識を活用して思考判断力をつける,という点では不十分である。これまで通り、学生に、グループワークによる講義体験をさせる、という内容は継続させたいが、そのウエイトが大きくなることで、全般的に要点をつかむ力を伸ばしきれなかったり、時間をかけて理解を促すということが弱くなる可能性がある。さらに講義方法を工夫して、日常的な小テストを取り入れる等して、知識の定着を図り、そのベースに立って、学生が思考判断力を伸ばせるように創意工夫していきたい。

2115100

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	前田　由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が100% 、次に「資格取得に必要である」が12.4%となっている。「関心のある内容である」は2.2%であり、授業内で精神看護に関心を向けて受講できるように工夫が必要と考える。しかし、実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性を持って受講していると思われる。 ②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎の科目である。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。 ③学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに大いに関心が深まったという感想が多く聞かれた。また、精神科看護における倫理を考える目的で、精神科病棟を舞台にした映画「カッコーの巣の上で」を視聴し、レポートを作成させた。精神疾患を持つ人の人権について考えを深めること、および思考力や文章を書く力を授業の中で培っていく目的で実施した。 ④国家試験対策の一環として、授業毎に国家試験問題を解かせ解説を実施した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は66.8（±8.3）点であり、再試対象は17名であった。83%が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは6名であり、少なかった。試験のレベルは例年と大差なかったのだが、成績の内訳は、Sが0%、Aが6%、Bが33%、Cが45% 、Dが17%であった。 目標別に見ると、知識・理解に関しては、70%思考判断に関しては65%、意欲関心に関しては70%、態度に関しては70%であった。精神看護の分野は、身体疾患と違いイメージしづらいので、ビデオを視聴したり、事例を多く取り入れたり工夫しているが、専門用語が聞き慣れないもので余計に難しいイメージを持つようである。できるだけ多くの学生が興味関心が持てるように工夫を重ねたい。 学生による授業評価では、知識・理解における自己評価が最も高かった。思考・判断の観点も知識・理解の観点もあまり差がないことが示された。授業毎に国家試験対策も兼ねて例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきており、図書館の利用率もよく約70%の学生が利用していた。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が20%ほどいる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、2年生後期の精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。国家試験を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度は、70%でおおむね達成されたと思われると思われる。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.8で他の項目より低めであった。事例を取り上げたり、ビデオを視聴させ、考える時間を作ったりしたが、授業の進行上、十分な時間がとれなかった。その分、レポート提出という形で課外で自己学習し、思考する時間は十分とれたのではないかと考える。 学生の意見として、課題が多くて余裕がないという意見が出ているが、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。他の科目との課題の調整が必要であれば行っていきたい。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われるが、思考判断の面では課題が残った。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとってとっつきにくい科目であったかもしれない。事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。学習内容について何をしてよいかわからないと言う学生の意見も多く聞かれたので、本時のねらいを具体的に示すこと、予習復習の内容を具体的に示すことなど改善を図りたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を行いたい。

2115200

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	前田　由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が99% 、次に「資格取得に必要である」が11%となっている。「関心のある内容である」は4.3%であり、授業内で精神科看護に関心を向けて受講できるように工夫が必要と考える。しかし、実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。 ②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら，精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。 ③精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビドラマやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示した。精神疾患を持つ人に対する先入観が完全に払しょくされることはないが、出席カードに記入されている内容から見て、精神科看護に興味を持つ学生は増えていると感じる。 ④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。冬期休暇中の課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.8（±6.75）点であり、再試対象は1名であった。99%が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは39名であり、学生の努力が見えた。成績の内訳は、Sが2%、Aが37.4%、Bが45.5%、Cが14.1% 、Dが1%であった。 目標別に見ると、知識・理解に関しては80%、思考判断に関しては70%、意欲関心に関しては70%、態度に関しては70%であった。精神看護の分野は、身体疾患と違い、症状がイメージしづらいので、ビデオを視聴したり、事例を多く取り入れたり工夫しているが、精神疾患に対するマイナスのイメージが強くなるのも実習時の緊張につながりよくないと感じている。あまり先入観を持たずに、正しくありのままに理解できるようにすることが課題と考える。 学生による授業評価では、知識・理解における自己評価が最も高かった。思考・判断の観点も知識・理解の観点もあまり差がないことが示された。精神看護学概論に引き続き、授業毎に国家試験対策も兼ねて例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきており、図書館の利用率もよく76%の学生が利用していたが、内容が不足している学生もおり、指導を要した。冬期休暇中に国家試験に関する課題を組み入れたことで、知識習得に対する自己評価は高く、テストの結果に反映された。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度は、70%でおおむね達成されたと思われる。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.1で他の項目より少し低めであった。授業の進行上、発表する機会は少ないが、事例を取り上げたり、ビデオを視聴することで、思考する刺激は与えた。授業内では十分な時間がとれないが、その分、レポート提出という形で課外で自己学習し、思考する時間は十分とれたのではないかと考える。 精神看護学概論では何をしてよいかわからないと言う学生の意見もあったが、方法論では、学習の進め方が具体的になり、ノートまとめや疾病学の学習、教科書をよく読むなど、学習に対する姿勢が能動的な方向へ変化してきた。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目でる。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎的知識の理解、思考の理解が望まれる。近年のストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはいけない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人への看護の応用・展開につながるようにしなくてはいけないと考える。また、国家試験においては災害時の心のケアも盛り込まれており、時代が求めているものを速やかに取り入れることも必要である。学習の基本が身についていない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど、国家試験からのアプローチを実施しているが、本来の精神科看護に対する関心がどのくらい向けられたのか疑問であり今後の課題と考える。

2116000

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	飯野 英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護基礎マネジメント論	2	後期	選択	はい	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	3年生の看護学各論の臨地実習前であること，就職活動前の時期であることを念頭に，臨床，とくに病院管理の基本的事項に焦点を絞って解説した．例えば，組織図の意味，病院の法人格の違い，病院機能の違い，二次医療圏を中心とした地域医療の考え方，などである．必須科目であることが主な受講動機であるが，まだ，地域医療がイメージできていなく，臨地実習経験も少ないため，講義の内容が理解しにくいと考えられる．

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績得点の全体平均が80点近くあり，出題の難易度が低かったかと反省している．一方では，今年度に限って平易にしていないにも関わらず，評価得点が高いのは，学生の準備が整っていたとも考えられた．

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	授業で解説する内容と臨床実習の時期から言えば，3年生の後期から看護各論実習に出るため，3年生前期の配置が良いかと考える

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	もう少し学習課題を提示し，自分で調べて書く学習を積ませることで，考え方についての学習を進めることができると考えている． 臨床の事例については「わかりやすい」という評価があるため，次も活用できると考える． 事前学習の「取り組み方がわからなかった」というコメントを元に，次回テーマに関する学習方策をアナウンスすることが必要である．

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標自体は概ね達成できていると考えるが，管理学に関する内容なので，臨床実習では知識の定着が図りにくい分野である．就職活動前に2年前の知識を想起させるプリントの配布などを行うと効果的かもしれない．

2116200

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康危機管理論	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	2年生後期の科目である。学生の受講動機から全員の学生が「必修科目である」を選択している。 本科目は1単位であるが、昨今の日本の状況から国民が健康危機に遭遇する事象が数多くみられる。そのため、それらの事象を取り上げながら、看護職としてどのように考え、対応すべきスキルの必要性について理解を求める。授業開始当初は、災害当事者として事象を捉えていくが、授業進行とともに看護専門職支援者としての立場で思考できるように段階を踏んでいく講義を計画している。 毎時の授業コメントにおいて、授業の理解状況の中から、学生の態度を変化を捉え、授業方法の微調整を行っている。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、84.6点であり、再試対象者は3名であった。標準的レベルに達した学生が97%であり、内、理想的レベルに達した者は72%であった。 目標別にみると、知識理解に関しては82.7%、思考判断に関しては82.7%、意欲・関心に関しては94.1%、態度に関しては86.6%であった。 学生の到達度自己評価においては、全項目において「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している学生が9割みられる。項目の平均値は、3.2～3.6点となっており、概ね評価はされるが成果としては到達点を上げる必要がある。 1単位という限られた授業コマのため、学修のための主体的行動を支援するための授業展開が不十分であり、学生の図書館の活用等少ない結果となった。限られたコマ数で効果的な授業を展開するためにも、この点に関して改善が必要と考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門基礎科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況であるが、本科目は、履修学年は2年後期であることから、授業目標を達成するために低学年の学習内容にあわせ、授業内容および方法の検討を行い、計画したものである。結果、最終成績評価からみた場合、概ね目標を達成できていると判断できる。 今後、この授業を契機として、健康危機管理や災害看護に関心を持ち、さらに発展させていく力をつけるためには、学生の主体的学修行動を育む授業を検討していく必要がある。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、半数の学生が予習・復習を実施していない。具体的な課題提供を明示しないと行動に結びつきにくい状況がみられる。本科目は、健康危機管理事象において、社会的関心を向け、看護専門職としての活動内容について講義していくものである。国内外の事象についての話題提供について、学生が主体的に行動し、今後、学修に取り組む仕組みを検討したいと考える。 授業の質評価においては、全項目平均点3.3～3.5点であった。概ね理解されているが、さらに精度を上げていく必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに授業内容を精選し、学生の学習意欲を高める講義を検討する。

2116400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護研究演習	4	通年	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	学生は4年生で看護研究という初めての学習過程を経験するため，学修準備性には自ら調べて書くという意欲に関して心理面の準備を求めている． 本授業の実施においては，臨床看護実践に役立つように疾患に絡めた研究テーマを指導した． 文献検索から研究テーマの絞り込み，方法の検討，結果のまとめ，文献の引用と考察の考え方，研究報告の約2000字の文章作成までを，一度，学生自らが体験し，完成までにどのような点に留意しなければならないかを個別に指導した．

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された		達成された	どちらともいえない	達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者数が1名だったため，統計学的な分析は行えなかった．文献検索・文献の検討では文献情報の検索，文献の精読など積極的に行えていた． また，結果を図表で整理することや，最終的に提出した2000字程度の学会抄録様式の文章を完成させるまでに，研究としての体裁を整える思考はできたと判断する．授業は個別学習ですべての授業に出席し，毎回，課題は提出していた．ただ，4年生の通年科目のため，就職試験・国家試験の準備期間と重なり，授業そのものへの意欲や関心は高くは無かった．

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	看護研究の基礎は，様々な臨床場面を熟知した中から研究テーマを定めていく必要があり，とくに様々な知識や経験を統合しなければ目標達成が困難であるため，4年次の位置づけでよい．

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	知識や経験の量は学生によって個人差が大きいため，個別な改善策が必要である．学習進度を上げても大丈夫な学生には，パワーポイントプレゼンテーションによって学術集会での発表形式に準じたプレゼンテーションを模擬的に行っても良いと考える

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	4年次の通年科目で，2月には国家試験の受験を控えているため，大きな課題を次年まで持ち越さないで授業進捗を調整するのが前提である． 学生の学習進度によるが，進捗が遅れた場合を想定し，学習目標の到達のための代替案を準備しておくことが課題である．

2116800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	飯野 英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
遺伝看護学	4	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	4年生の後期科目であるため，就職後の臨床で有益な内容，臨床での事例を中心に必要な知識，看護の思考過程を解説した． 受講者の85%の受講動機が「興味があった」だったので，新聞記事になった遺伝看護領域の事柄を講義のきっかけとして，具体的な解説に展開した．旧カリキュラムのため，成績には反映しないが，全講義を聴講した学生も存在し，関心の高さを伺わせた．

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	4年生後期の選択科目であったにも関わらず，85%の人の受講動機が「関心があった」という理由で選択していた．そのため，学習意識が高く，質問も多くみられた． 筆記試験結果も高得点者が多く，全体の4割が「S」の得点範囲だった． 国家試験前でもあるため，課題学習を少くし，受講しやすいように配慮した．

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	遺伝という現象は，小児や母性といった領域に限らず，広範囲領域で確認される疾患，遺伝性の現象である．そのため，各看護領域の基本的な理解無しでは学習の理解が進まない．現状の位置づけが妥当と考える．

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	受講者全員が女性のため，出生前診断の事例をいくつか提示できるように，架空の事例を作り上げることが課題である．

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	遺伝医療で必要となる思考過程について，もう少し時間をとって解説したいと考える．例えば，遺伝医療の中で，いとこ婚を積極的に推奨しない理由について，劣性遺伝病の発症率を基本知識としてどのように考えるのか？といった課題は，確立論の理解から始まり，劣性遺伝の理解に基づく遺伝学的思考と医療者的判断が不可欠となる．医療者にとっては確立であっても，当事者にとっては1分の1である事実を確認し，どのようなコミュニケーションがクライエントの自尊心を守り，ニーズに応えることにつながるのかを考えていく．

2116900

リフレクションカード　2015年度後期

学科	看護学科
氏名	村山　由起子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学演習	4	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①救急・クリティカルケア看護学演習は、3年次に必修科目として救急・クリティカルケア看護学を履修したのちに、選択科目として4年生後期に開講されている科目である。本科目では、救急・クリティカルケア看護を必要としている患者の「命を守るために必要な援助方法」を学ぶことを目的としている。今年度初めて開講する科目であることから、受講動機としては、「教員に勧められた」88.9%であり、「単位数を確保する」11.1%であった。②救急・クリティカルケア看護学演習は、3年前期の救急・クリティカルケア看護学の講義内容や4年前期までの実習を踏まえて、できるだけ臨地の場面を想定した演習内容を計画・実践した。③救急・クリティカルケア看護学演習のガイダンスを基に、事例を用いて鎮痛・疼痛管理を含めた患者の観察及び看護援助について、グループワークで思考判断を深められるようにした。④生命の危機的状況ある患者の看護を理解させるために、集中ケア認定看護師の協力のもと、臨床現場を想定した環境作りを行い特に実際の人工呼吸器を用いて演習を実施した結果、学生にとってわかり易く、興味関心も高めることができた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、88点であり、再試験の対象は0名であった。全員が、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達した。目標別にみると、思考判断については94%、意欲関心については80%、態度については88%、技能表現については90%であった。4年生後期の科目であるため、講義に対して真面目に取り組む姿勢がみられ、目標達成に反映された。最初は、関心意欲もあまり高くはなかったが、知識の確認ができたことや知識を新たに得ることができたという評価から、次第に興味関心も高まった。学生による授業評価においては、思考判断の観点や意欲関心の観点、態度、技能表現の観点において、あまり差がないことが示された。演習の場面をより臨床を想定して実施したことや実物を使用して授業展開を行ったことが、全体を通して目標達成したことに大きく反映された。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、生命の危機的状況にある患者の看護を演習を通して修得していくことから、3年次の救急・クリティカルケア看護学を履修し、各論実習もすべて終了した4年生後期に実施される選択科目である。学生は、一定以上の成績を修めていることから、内容的には、妥当であると考える。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価では「思考判断」94 %、「意欲関心」80 %、「態度」88 %、「技能表現」90%とすべて80%以上で理想レベルに達成している。ただ、今後は、事例や演習の内容を精査し、救急・クリティカルケア看護学演習にさらなる興味関心を持って臨めるように工夫していきたい。成績の平均値が88点であることから考えて、内容的にはだとうであったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均値が4.2であり、学生が十分参加できる演習になった。ただ、学習量の評価では、予復習時間が少なかったことから、課題を工夫する必要性があると思われる。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考える。選択科目ではあるが、受講動機が「教員に勧められた」が8割以上であったことから、来年度に向けては、学生の認識を高められるように改善を図りたい。学生の意見として、実技は患者の気持ちや手技が自分のためになり、楽しくできたとあった。授業過程を振り返ってみたとき、今後も、演習を通して実際の看護に生かされる内容になるように、授業展開の工夫を図りたい。

2117000

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	髙橋　甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際看護論	2	後期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	① 国際看護論は、2年生後期科目選択科目である。外部講師による理論と実践からの学びを通して、世界の健康についてグローバルな視点を持ち考えることができるよう、諸外国の社会的・文化的・経済的な諸問題が人々の健康に与える影響について学び、国際看護協力について学ぶ機会としている。学生の受講動機は、「関心ある内容である」53.7%、「単位数を確保する」48.8%であった。 ② 外部講師の専門をもとに講義展開がなされており、体験を聴くだけではなく、理論に基づいた講義となっていた。専門用語が多いため、事前課題にキーワード学習を課した。そのため、図書館等の利用が半数を超えており、真面目に取り組んでいたと考えられる。 ③ 紛争地域の看護は実際の活動内容を学ぶ機会となり、興味・関心を高めることができた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績は平均点76点であった。レポート提出の不備があり1名履修できなかった。結果、全員が標準的レベルに達したが、理想的レベルは15名であった。目的別にみると、知識理解に関しては、77.9%、思考判断72.9%、意欲関心82.9%であった。全体的真面目に講義に臨んでいた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、看護師国家試験に関連するが選択科目である。事前課題および最終レポート結果から考えて一定の成果を収めていることから、内容的に妥当であると考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価では、「知識理解」77.9%、「思考判断」72.9、「関心意欲」82.9%であった。ほとんどの学生は課題に取り組むことができおり、真面目に受講することができていたため内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、8割以上が、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値も3.0から3.5であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。しかし、一部の学生から不満の声があった。今後は外部講師との調整を行い、対応していきたいと考える。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、行動目標については概ね達成できたと考えるが、個人差が大きく、最終レポートにおける思考判断については課題を残した。 また、外部講師による講義であるため、他科目や実習の進捗状況について学生のレディネスについて伝えている。次年度より、新しい外部講師に依頼するため、今後も学生の学習の進捗状況等を共有し、学生が国際看護を学ぶ意義を見いだし、興味・関心を持って講義に臨めるようにしていきたい。

2117200

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	永田 賢介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
NPO論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	4年次の後期という、実習も終わりあとは国試を控えるのみという時期で、直接的に看護技術や知識には関係の無い内容を取り扱うため、学生の授業を受ける「動機付け」に力を割いた。 具体的には、地域包括ケアなど、看護や福祉の世界とNPOや地域の関係性を説明し、また「看護職の働き手として」「看護／福祉サービスを受ける側になった場合」等の観点から、これからどのような人生を歩むかを想像させ、自分とNPOの関係性を見いだせるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価のうち40点を占める記述試験の成績で、平均値が28.8と、NPOの最低限の概念や知識は自分の言葉で書ける程度には理解され、ありがちな誤解は解けたと考えられる。 ただし、「到達度自己評価」としては、10項目の設問のうち4問に”自分が学ぼうとしている専門分野の…”と前置きで強調されているためか、3.1～3.5となっており、視野は広がったものの、看護や福祉の専門的知識に役立つという実感が湧いていない印象である。 但し、「自由記述」には10名が記述し、いずれも非常に高い評価を得ているので、今後実際に地域の現場の仕事の中で振り返った時に、学んだ価値を感じることができるのではないか。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	「受講動機」において科目に対する関心や主体性は非常に低いものの、「到達度自己評価」の（3）や、「自由記述欄」の評価は高いため、受講後に社会に対して視野が広がる、価値を感じられる科目だと理解できる。 今後については、学生からも2年次や3年次に移動を希望する声も複数見られ、学生の進路選択においても、カリキュラムマップにおける再検討には一定の意義があると思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、”学生の参加の機会”と”質問に答える機会”は、それぞれ4.8、4.6と非常に高い評価を受けている。高度な知識を暗記するよりも、考え方や事例を元に自分なりの言語化を行うという目標に対しては適切な手段であったと捉え、今後も更に改善しつつ継続する予定である。 開講年次や時期のこともあり、授業の予習復習や課題以外の学習の負担は意図的に減らしていた。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	開講1年目の科目としては及第点であったと考えられる。今後は、学生たちの認識する”専門領域”と、ここで学ぶNPOのイメージを更に近づけていくため、より専門性の高いゲスト講師の招聘や、講師自身が看護領域の基本的知識をつけていくことが必要である。

2117300

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	前田　由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護教育論	4	後期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるため、受講動機は「関心のある内容である」が100%、次に「単位数を確保する」が50%であった。4年生の後期に開講されるため国家試験に直接関係が少ない本科目の履修者は少ないが、あえて履修する学生は、新たな知識を得ようとしており準備性は高いと思われる。 ②日本の看護教育制度、看護教育カリキュラム、看護職の生涯教育を取り上げた。 ③日本の看護教育の変遷と戦後数回行われたカリキュラム改正について解説した。その後に現在の看護教育制度の課題についてディスカッションし、今後の看護教育のあり方を考えさせた。 ④新カリキュラムになり、4年生後期15コマから8コマの授業になったが、選択科目であるとともに国家試験の勉強が忙しくなる時期になるため、希望者が少なく少人数の授業であった。もう少し興味を持てるようにガイダンスでの工夫をしたい。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85（±0）点であり、再試対象はいない。対象学生は2人であったが、毎回のディスカッションは活発に行われ、2人とも理想的レベルに達した。成績の内訳は、Sが0%、Aが100%であった。 目標別に見ると、知識・理解に関しては70%、思考判断に関しては80%、意欲関心に関しては85%であった。これまで看護教育について考えたことがなかった学生であったが、卒業を間近に控え、改めて看護教育の歴史やカリキュラムの変遷など興味深い内容であり、活発なディスカッションができた。今後は、できるだけ多くの学生が興味関心が持てるように工夫を重ねたい。 受講者が2人であり、学生の疑問に沿って、よいディスカッションが繰り返された結果、学生による授業評価は、すべてにおいてよかった。今後は受講者が増え、さらに活発な議論ができるようにしたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、選択科目である。卒業を控え、4年間の看護教育を振り返り、看護教育の意義やこれからの展望を考えるためには良い時期と思われる。看護教育の歴史やカリキュラムの変遷の知識は学生に余裕がないと学ぶ意欲も出てこないと思われる。国家試験勉強の焦りもあるので学生の状況も見ながら授業を進めていったが、少人数であり意欲をそぐことなく授業が進められたのではないかと考える。授業の取り組み状況、レポートなどを見て内容的には妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 少人数であり、学生は真面目に授業に参加していた。まじめに取り組まざるを得ないことも否めないが、活発なディスカッションから学生の理解は進んだと思われるため、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業評価がすべて5になっているため学生にとって満足のいく授業であったのかもしれないが、2人であるため評価しづらかったかもしれない。生涯教育の視点で、卒業後にできるだけ役に立つ内容を構成したが、受講者が希望する内容の検討を図りたい。受講者が増えれば、グループワークや発表会なども取り入れ授業の充実を図りたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、4年生後期の専門科目の選択である。例年、国家試験のことが気になり、前期に履修登録をしていても取り消されることも多い科目である。学生の自主的な選択に委ねるだけでなく、教務委員の教員からも受講を勧められるが、なかなか受講者は増えない。4年生になってからではなく、もっと前から4年生後期の科目についてインフォメーションが必要と考える。内容については、キャリアプランニングの視点をもっと前面に出し、学生の関心が高まるようなものに工夫していきたい。

2117400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学特論	4	後期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	卒業が近い4年後期の看護学科の学生に、医療現場で応用できる疾病学の知識や医療技術を改めて解説しました。また、看護国家試験に向けた知識の整理も出来るように心がけました。自著の教科書「解剖生理と疾病の特性」を使用して、ポイントを絞って分かりやすく講義したつもりです。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「関心のある内容である」が最も多く、次いで「資格取得に必要である」が多くみられます。看護師となって臨床現場で働く自覚や国家試験に向けた強い意識の表れと思います。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	試験の平均値は80.9点（最高100点）であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが60名中33名でした。学生間で成績のばらつきはありましたが、全員が標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、コミュニケーション能力や倫理観以外のほとんどの項目において9割以上の受講生が「ままそうだと思う」以上の達成感を回答しています。皆さんが真剣に授業に取り組んだ表れだと思います。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護実践の充実」に属します。1年次の「疾病学総論」と2年次の「疾病学各論Ⅰ＆Ⅱ」「看護のための臨床検査」「薬理学」で疾病の病態・症状・診断・治療を学び、その後の病院実習にて実際の患者の看護を経験し、4年次に改めて医療現場で応用できる疾病の知識や医療技術を解説しました。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートをみると、「説明は理解しやすかった」にほぼ全員の受講生が「わりとそうだと思う」以上の回答をよせていますが、学生参加や質疑応答の機会については評価が低い傾向にあります。このことは次年度に向けた課題と考えます。 また、学習量をみると、半数以上の受講生が30分程度の予習復習を4回以上行っていました。また、図書館を利用しているひとも多く、受講生が積極的に取り組んだ表れだと思います。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講生の授業に対する意欲、試験の成績、到達度自己評価などより、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 自由記述では「もっと講義時間を増やして欲しい」という意見が多くありました。科目の授業回数は決まっているので、そのなかで如何に効率よく幅広く講義をするかが次年度の課題と考えます。

2117500

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学演習	2	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①2年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「資格取得に必要である」88.2%という認識であり、一方、「関心のある内容である」29.4%と3分の1の学生が必要性を感じ、関心をもっていることがわかる。 ②本科目は数的理解および推察・思考・判断を求める内容であるため、受講対象が実習前の2年生であることから、授業計画において、実際の地域課題に即した授業内容を取り入れ、単純から複雑へ考察が深まるように計画した。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された		達成された		達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、90.4点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100%であり、内、理想的レベルに達した学生は、88.9%であった。 目標別にみると、思考判断に関しては88.2%、態度に関しては100%であった。数的処理に関して苦手意識が強い学生が多い傾向にあるが、地域の具体的題材を取り入れることにより、学習意欲が高まり、保健師としての専門的態度を身につける上でも効果的であったと判断できる。 学生の成績評価においては、科目の目的を達成できたと評価できるが、学生の到達度自己評価においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」平均値3.7点、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」平均点3.9点の得点がやや低いと思われる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が2年生後期であるため、授業内容の専門性の難易度を考慮することが重要である。 最終的な成績評価からは、理想的レベルに9割の学生が達成していることからも内容的には妥当であると考える。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 思考判断および態度に位置付けられた科目である。思考判断に関しては9割、態度は10割の者が達成していることから内容的には妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、1回30分以上の準備を6回以上行った学生が67%、1回30分以上の復習を6回以上行った学生が50%であり、まったく実施しなかった学生は0%であることから。課題の提供については一定の成果が出ていると評価できる。一方、授業の課題以外での取り組みについては、33%であった。 授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに応える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。 図書館、インターネットの利用については、7から8割が利用している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに授業内容を精選し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。

2117600

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	楢原 真二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地方自治論	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	看護学科の学生にとっては、興味を抱くのが難しい科目なので、少しでも興味がもてるように、また理解できるようにビデオ・DVD等を用いて講義を進めた。また、講義のはじめに 板書をすることによってこれから話す内容のポイントは何かを明確にするようにした。自由記述では「おもしろかった！」というコメントがあったので、ある程度、講義の目的は達成できたのではないかと考える。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された		やや達成された	やや達成された	達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	看護学科の学生にとっては専門と大きく分野が異なる領域であるため、完全に達成されたとは言い難いが、「おもしろかった」というコメントがあったことからおおよそは達成されたのではないかと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	子どもの貧困の問題や限界集落さらには北九州市の超高齢化などの問題は、看護学科の学生にとっても学ぶことは必要であるといえ、内容的にも妥当であったと思える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	専門とは大きく異なる領域であったため、ビデオ・DVDを用いたり、ディスカッションの時間を取り入れたりしたことはよかったのではないかと思える。学生にとっては専門ではないので、知識等を教えるというよりも、課題を通じて考える力を養うことに時間を割いた方がよかったかと考えており、この点は改善点であるといえる。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門科目ではなく集中講義ということを考えると、ある程度、講義の目的等は達成できたのではないかと思っている。来年度は、講義を通じて学生に教えるというより、学生に積極的に参加してもらいその中からつかみ取ってもらうような講義にするようにしたいと考えている。

2117700

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	沖 勉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康政策論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	普段から保健福祉の動きに興味を持つことが大切と考える。そのためには、報道等で流れたことを主体的に受け止め、興味のあることは、インターネット等で深めてもらい、授業のための準備は特に重点をおいていない。なぜなら、健康課題を政策化するには、住民の生活からの課題をまずは見つけることが出来ないと政策化も出来ないからである。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成された		どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	① 地域や職域で働くようになると、住民や職員にきちんと伝えたいことが伝わることが大切であり、他の授業等でも訓練されており、グループワークでの発表内容・その時の態度・手段等「保健師の卵」と思われるものであり、優れていた。 ② 学生の保健所等実習の前に2コマ講義をすることにより、保健所実習での健康政策等に関する知識・課題の修得に効果があったと思われる。 ③ また、保健所実習後に残りの講義をし、グループワークで協議したものを発表してもらった。保健所での実習の振り返りや整理になったものと思われる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	必修でなく選択科目であるにも係らず、保健師コース全員が履修している。保健師の主たる業務である「地域診断」と同じ手法であるため、その復習や知識の整理とも関連するため、内容的には妥当だろうと考える。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」で、授業中にグループワークを行ったことは、良い評価をもらった。テーマを提示し、グループで協議し、その結果を代表者に発表してもらったことが評価されているかと思われる。授業のやり方、進め方としては、次年度も同じようにやって行きたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	健康政策を打ち立てるには、保健師一人（行政職一人でも）で出来ることではない。組織をあげて作成に係らないといけない大きな業務である。そのような雰囲気は伝えられたかと思う。地域診断が十分に出来れば、その手法で健康施策も作れると期待できる。

2117800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術論	2	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	①当該科目は，保健師課程のなかで，公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。学生の準備性として求められることは，看護専門科目＜看護実践と応用科目群＞の母性・小児・成人・老年看護学領域の概論の知識を取得していることである。すなわち，対象特性・発達と起こりやすい健康問題に関する基礎知識が必要である．しかし，現行カリキュラムでは，同時期にそれらの科目が開講されるため，学生の準備性が不足していることを前提に授業を進める必要があった．具体的には，関連科目のシラバスで進度を確認しながら，予習課題の提示内容をタイムリーに提示するなどの工夫を行った。 ②受講動機をみると「必修科目である」40.0%，「資格取得に必要である」65.0%が高く，保健師課程の必修科目であることが反映していると考えられる。 一方，「関心のある内容である」20.0%と前述の理由との間に差があることは，前年度から同様の傾向にある。また，今年度は保健師課程以外の学生が選択科目として受講した者が4名（約2割）だった．「単位数を確保する」25.0%，「友人が履修している」5.0%の背景に，選択履修者の存在があると推測される。これらの学生が，関心を高め意欲を向上させることができるよう，具体的な事例を教材として用いる工夫を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は77点であり，再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し，理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは9名（全22名中）であった。 ②観点別評価の達成度（客観的）に見ると，知識理解及び思考判断に関する評価方法では，試験，グループ発表及び質疑応答を通して66.9%，課題発表を通しての関心意欲100.0%，態度92.7%であった。思考判断では，事例の情報収集，健康課題のアセスメントを行い，解決のための看護の方法と技術を判断できるかを問うものであった。上記の「学生の準備性」で述べたとおり，関連科目の基礎的知識が未修得のため，それらを活用する思考判断は「やや達成」に留まっており，今後の継続課題である。 ③学生の「学習到達度の自己評価」では，「知識を確認，修正したり，新たに得ることができた」（Av4.0,Me4.0）で最も高く，次いで「自分が学ぼうとしている専門分野について，学びを深めたいと意欲を持つことができた」（Av3.9,Me4.0）であった。②の客観評価結果との整合性が確認された。最も低かった「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（Av3.4,Me4.0）であった。この要因は，当該科目が技術習得を達成目標とした科目ではないため，精神運動領域の内容を含めていないことであると考えられる。 ④授業時間外の学習時間の確保として，図書館での文献や雑誌（68.1%），学術データベース（27.2%）及びネット検察（68.1%）の活用がなされており，また半数以上の学生が複数回予習復習を行っていた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①上記3．4に述べた通り，カリキュラム体系における当該科目の順序性をみると，若干問題が生じていることが明らかになった。この点は，既に学科カリキュラム評価委員会で検討されており，次年度入学生以降では，関連科目の開講時期の変更が行われる予定である。変更後の学生の評価を注視していく必要がある。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 保健師国家試験科目であり，学生の授業に臨む姿勢は真摯であり，自己評価で高い項目は，「職業選択の参考になった」，専門分野に対して「的確に判断する力」「学びを深めたいという意欲」であり，自由記載欄では「説明が解りやすい」とあり，全員が一定の成績を収めていることから，内容の妥当性には問題ないと考えられる。 但し，次期カリキュラム検討では，技術論の科目であるため，演習科目との整理統合を行い，「技術習得」の内容を検討していくことが課題である。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において，「授業中に自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会が設けられていた」（Av4.2　Me4.0）で最も高かった。一方で，「口頭，文書など，何らかの形で学生の質問を受け，それに答える機会が作られていた」（Av3.6　Me4.0）と大きな差は見られなかったものの，話し合う機会は与えているものの，そこで生じた質問に対する丁寧な回答の機会は比較的不足していたということである。実際には，質問の時間を設けても全員の中で挙手等をして質問することは殆どなかった。ということは，質問と回答の方法を工夫する必要性を示唆していると考えられる。次年度に向けた課題とする。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	保健師課程の科目特性から，看護師課程の基礎的知識を土台に，公衆衛生看護学の基本的知識と思考判断を修得する科目である。が，思考判断の面では教員側の評価と学生側の自己評価とのギャップがみられた課題を残した。この点は，4年次の関連科目である「公衆衛生看護技術演習」で補強を行い，講義演習科目と連動させて対応していく予定である。 授業に進め方では，授業の最後に振り返りと質問等を記入させるなどして，次回の授業で回答する時間を確保するなどして，学生が質問しやすく，またタイムリーに教員が回答するよう，双方向の授業への改善を目指したいと考える。

2117900

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対象別保健指導論	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は選択科目であるが、保健師課程の学生は必修である。そのためか、履修動機は「資格取得に必要である」が78%で、「関心がある内容である」は22%であった。看護師課程の学生も2名選択してくれたことは、励みになった。保健・予防の視点で医療を考えたり、病院看護職と地域の看護職の連携を考えたりすることは、これからの看護にとって必要不可欠である。今後は、看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。 授業内容は地域保健活動であるため、対象や援助方法が広すぎてイメージしにくい。そのため15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。また、教科書は予習復習に使い、講義はオリジナルのレジュメと、毎回、保健師ｼﾞｬｰﾅﾙから事例を準備した。授業評価では、事例があって「イメージしやすかった」という意見があり、方法論の解説だけでなく、授業内で事例を使って方法論のポイントを復習することで、興味にもつながっていったと推察する。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	科目成績は、平均点 79.6点であった。内訳は「秀」2人、「優」10人、「良」5人、「可」3人であり、定期試験で再試験者は出なかった。学生1人1人の努力が感じ取れた。 ただし、到達内容を見ると、対象のニーズを捉えたり、保健・医療・福祉の専門職との連携を図ることは記述できているが、健康課題を多方面から考え、組み合わせて問題解決する方法については、記述に差が見られた。1対1の対応だけでなく、「多方面から捉える」「組み合わせて問題解決する」ことについて、強化する必要があることがわかった。授業評価を見ると、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する、などの学生参加の機会がつくられていたか」「口頭、文書などの何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつくれれていたか」が他の質評価に比べて若干低かった。受講生が20名であることから、ディスカッションをすることが容易である。このような機会を増やすなどして、視点の広がりを得られるように改善していきたい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	本科目は地域保健活動の方法論である。あらゆる年代、あらゆる健康レベルを対象とした健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせて支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたっている。各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要であり、それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。 保健師国家試験を視野に入れた内容を実施したので、保健師課程の学生に加え看護師課程の学生も2名受講していたが、2年後期ではかなりの難易度だったと思う。いくつかの課題を提示したが、「授業課題以外に学習に取り組みましたか」では「取り組んだ」と答えた受講生は25%であった。自主的に学ぶことが習慣づけられなかったのが残念である。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がつくられていたか」の質問で、学科平均より高いものの、3.6にとどまった。選択科目で受講生が20名であることから、ディスカッションの機会を増やして、視野を広げる取り組みをしてきたい。 科目のレポートテーマを「公衆衛生活動の実際を振り返り、試験問題と解説を作成する」とし、テスト問題と解説を作ってもらったところ、興味をもって取り組んでいた。解説を作ってもらったら、間違ってた理解をしている部分も発見できた。そのため、全員のレポートを修正し、全員に印刷・配布して試験対策にしてもらった。このことが、定期試験での再試験者0名に繋がったと考える。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は保健師資格のための学習であることから、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。学生は保健師専門雑誌にある活動の実際に興味を示し、授業の後半になると、最低限の解説で内容を理解した。保健師過程の必修、看護師課程の選択科目であるため、学習意欲が高いように感じる。 しかし、「授業参加のために30分以上の準備をどのくらい行いましたか」「授業参加のために30分以上の復習をどのくらい行いましたか」では、ともに半数以上が0～1回であった。課題を出すことは容易であるが、自ら学ぶ意欲と習慣をもってもらう働きかけをしていきたいと考えている。

2118300

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理演習	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「必修科目である」87.5%、「資格取得に必要である」37.5%という認識であり、「関心のある内容である」を選択した学生はいない。 本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後開講する計画で実施した。実習した内容を含め、公衆衛生看護管理としての学習を計画したが、時期的に国家試験等の準備に追われ、授業内に学習をし、授業外での学習活動はやや薄い状況であった。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、91.6点であり、再試対象者はいなかった。全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、思考判断に関しては84%、意欲関心に関しては97%、態度に関しては100%、技能表現に関しては100%であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。 学生の成績評価においては、科目の目的を達成できたと評価できるが、学生の到達度自己評価においては、最終学年の科目であることを鑑みると、全項目においての評価平均が3.2～3.6点であることは、やはり低いと判断する。本科目の意義を含め学習方法の検討が必要と考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	DP・CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画したが、学生の授業意欲および関心において、評価は厳しい結果となっている。 最終的な成績評価からは、全員が理想的レベルに達成しているため、内容的には妥当であると考えるが、学生の学習意欲を高める授業展開の検討が必要である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、1回30分以上の予習・復習を全く行わなかった学生が22.2%となっている。授業方法の展開において課題の提供について、学生の状況を踏まえ、次年度検討していく必要がある。 図書館やインターネットの利用についても同様の事が言える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、全員の学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。 しかし、保健師課程を選択している学生は、他学生より国家試験の準備にかかる時間が短いことがあせりとなり、後期に開講する授業の参加状況が消極的となりがちである。特に看護師国家試験合格を第一優先とおく場合に顕著にその状況がみられる。本科目の学習意義の理解と、4年生後期の対応について検討をすすめ、学生が主体的に学習できる環境を検討する。

2118500

リフレクションカード　2015年度後期

学科	看護学科
氏名	一期﨑　直美

1．基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択	いいえ	11

2．観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	×	×

3．授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	学校保健は、養護教諭免許状取得に必要な科目である。この科目は、学校保健活動という、養護教諭の職務の基礎となる学習内容である。しかし、学生の受動動機「資格取得に必要である」が90%で「関心のある内容である」は10%であった。学生は、資格取得に必要な授業として理解はしているが、受動的に受けていたことが考えられる。

4．学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない		どちらともいえない			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	定期試験の結果、標準的レベルに達した学生が63.7%であった。最終的な成績は全体を通して「どちらともいえない」、目標別にも「どちらともいえない」であった。 学生の学習到達度の自己評価の平均値からみると、最も高い項目「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.0で、最も低い項目「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」3.5で、学科の平均値と比較して大きく下回るものはみられない。 「学修のための情報利用」としては、「図書館の図書、雑誌」が91%，「データーベースの利用」が64%「インターネット利用」が82%で課題のために利用していたと考える。 「学習量の評価」は「30分以上の予習を取り組んだ」、「30分以上の復習に取り組んだ」学生が72.7%であった。予習復習の回数からみると、予習に取り組む学生のほうが多い傾向がみられた。 学生は、学習していないわけではないが、授業での小テスト（13回）結果がよくなかったことなどからみると、復習が少なく知識の定着化が図られなかったと考えられる。

5．DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は看護学科教職課程の養護教諭免許状取得にあたり、養護教諭としての専門的な内容に入っていくために必要な基礎的な知識理解が必要な科目である。また、養護教諭免許状取得には必修の科目である。教職課程と看護学科のカリキュラム上、この時期に実施するのが妥当な科目であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 学生の「学習到達度の自己評価」かの平均値からすると、ほぼ内容的には妥当であったと考える。成績評価からみると達成度はやや低かった。学生自身の理解を深めるために、講義を工夫したり、学生自身の振り返りをすすめていきたい。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には概ね問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」の平均値は、最も高い項目「授業中の意見をまとめる、学生が参加する機会」4.3で、最も低い項目「説明は理解しやすかった」3.0であった。そのため、理解をすすめていくために、学生の意見を取り入れていくよう授業内で把握していく方法を工夫したい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は養護教諭としての専門的な内容に入っていくために必要な基礎的な知識理解を得るために必要な科目である。今回の結果からは、基礎的知識習得と関心が低いことが課題である。 以上から、次年度の担当科目で振り返えることができる範囲は、振り返りながら進めたい。また、同時進行の養護概説とのつながりを意識しながら関心を高めていくよう働きかけたい。毎回、授業の要点を確認する時間をとり、学生自身の振り返りについても促進させたい。

2118600

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	一期﨑 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	養護概説は、養護教諭免許状取得に必修の科目である。また、この科目は学校保健という科目の既習後に学習する方が学生は理解しやすい。しかし、カリキュラムの都合上、学校保健と同時進行しながら進む。そのため、学校保健の進行を優先しながら進めていくように計画している。また、概説であるが、演習の時間がないため、演習的な内容も組み込んで計画している。受動動機の「資格取得に必要である」が90%で「関心のある内容である」は10%という結果から、資格取得に必要な授業と認識しているが、受動的に受けていることが考えられる。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない		どちらともいえない			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	定期試験の結果、標準的レベルに達した学生が72.7%で理想的レベルに達した学生が18.2%であった。最終的な成績は全体を通して「どちらともいえない」、目標別にも「どちらともいえない」であった。 学生の学習到達度の自己評価の平均値からみると、最も高い項目「コミュニケーション力・表現力を身につけることができた」4.2、次に「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.1で、最も低い項目が「自分なりの目標を達成した」3.4であった。 「学習量の評価」は予習については全員がほぼ毎回「30分以上の予習を取り組んだ」という結果であった。 「学修のための情報利用」としては、「図書館の図書、雑誌」91%，「データーベースの利用」73%「インターネット利用」91%で活用していた。 学生の自己評価に差があまりみられないが、成績には差がみられる。そのため、基礎的な知識習得の確認と、それを事例で活用したり、思考判断を深めたりする過程を検討していくことが必要だと考える。また、ルーブリック評価等の内容についても理解を促したい。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は看護学科教職課程の養護教諭免許状取得にあたり、養護教諭としての専門的な内容の科目である。また、この科目は学校保健という科目の既習後に学習する方が学生は理解しやすい。しかし、カリキュラムの都合上、学校保健と同時進行しながら進む。そのため、学校保健の進行を優先しながら進めていくように計画している。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 「学習到達度の自己評価」からみて、内容的にはほぼ妥当であったと考える。しかし、成績評価からみると達成度が低い学生がみられた。思考判断解を深めるための工夫と、学生自身の振り返りを促進させたいと考える。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には概ね問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	事前課題を提示したため、学生の「学修のための情報利用」については、図書館，インターネット利用を活用した結果が得られた。「学習量の評価」でも、多くの学生が予習復習に取り組む結果となったと考える。「授業の質の評価」の平均値は、最も高い項目「口頭・文書などで何らかの形で質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.1で、最も低い項目「説明は理解しやすかった」3.5であった。そのため、説明の理解をすすめていくために、学生の意見を取り入れていくよう、授業内で把握していく方法を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は看護学科教職課程の養護教諭免許状取得にあたり、養護教諭としての専門的な科目になる。基礎的な知識についての習得と関心を高めることが課題である。そのため、同時進行の学校保健とさらに関連させ進行していくような授業内容の工夫を図りたい。また、この科目について関心を高めるように、養護教諭の職務に関する具体的事例を取り入れ働きかけたい。

2173500

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（中・高）	4	後期	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度がおおむね高い授業であったと考えられる。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、内容的妥当性に関しても、おおむね高い授業であったと考えられる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	第14回目、15回目の授業で、主担当を務め、学生によるポスター発表の場を設けた。この形式に関しては、来年度以降も行っていきたいと考えている。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた結果、おおむね満足できるレベルの授業のデザイン・運営ができたと考えている。他の教員との協力をさらに進め、よりよい授業の実現に努めていきたい。

2173600

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	一期﨑　直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	いいえ	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	教職実践演習は、養護教諭免許状取得に必修の科目である。学生も「資格取得に必要である」と認識し受講している。最初の授業で、学生に授業概要について説明し、学生のニーズを確認した。実際に学生はシラバスを参考に計画を立てていた。授業の進行内容については、学生の状況にあわせ修正していった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の全体評価としては、「やや達成された」である。目標別評価の、知識理解、思考判断、技能表現についても「やや達成された」である。 学生の到達度自己評価は、10項目中9項目が「わりにそうだと思う」と評価している。 学生に、授業前に資料を配布したことや、授業後にレポートの提出を求めた等で「学習量の評価」の②「2・3回」③「4・5回」につながったと考える。その事前事後と、授業での実践的な演習（実習記録を基に、経営案を作成）が、レポートや自由記述の内容とくに目標別の思考判断の「やや達成された」の結果につながったと考える。 また、学校における養護教諭の統計処理の基礎的な演習や応急処置の演習などが目標別の技能表現の「やや達成された」につながったと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は教職課程の学びの集大成であり、養護教諭免許状取得に必修の科目である。看護学科の場合は、教師と看護師に進む学生のモチベーションも異なることが予想される。この面について、学生のニーズに応えるよう工夫する必要もある。今年度は、一定の成績を収めていることから，内容的には妥当であると考える。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 行動目標からみると、全項目でほぼ妥当であった。教員の提示する枠の中で学生のニーズに合わせていくことで目標へと達成できたことから内容的には妥当な結果につながったと考える。 ③まとめ 以上，内容的妥当性に問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、5項目中4項目「期限何行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文章など何らかの形で質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が「①かなりそうだと思う」という高い評価であった。授業の枠の中で、学生の希望を取り入れ授業を展開した結果だと考える。また、その内容も、即、実践につながるような内容としたことがこの結果につながったと考える。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教職課程の学びの集大成といえる本科目は、教師へとつなぐ内容として概ね達成できたところもあるが、さらに専門性を高めたり、思考判断を深めたりできるよう充実させたい。 教職に関する実習経験が1回であるため、学校で学べるような機会を取り入れることについても検討したい。

2174400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	教職課程科目であるため、全体的に学生の受講動機のレベルは高いと考えられる。ただし、履修人数制限のある学科に比較すると学修への動機付けが高まっているとはいえない。 高校看護1種免許希望者は将来学級経営にかかわる可能性が高いので、本講義の内容を学校組織という視点からとらえなおすことができるように工夫を行った。養護教諭希望者も含め、特に地域や仲間集団のような教員から見えにくい領域に目を向けてもらえるよう心がけた。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	やや達成されなかった	やや達成されなかった				

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全学科平均（66.1）に対し、看護学科平均（59.6）であり、平均点が不可という結果であった。 出席状況を見ると、それほど欠席回数は多くないものの、皆勤が2名のみで他学科に比較して明らかに悪かった。 合格者平均と不合格者平均はそれほど離れておらず、これは全体を通じて成績があまりよくなかったことを意味する。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	教職科目であるため、学科DPと直接連動する部分は少ないが、看護技能を生かした専門的職業に求められる資質能力の一部を構成する科目である。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	学生にとって自己の体験と比較しやすい分野（児童期の仲間集団経験など）と比較し、そうではない分野（社会的発達の概念と社会化論の関連など）は理解度が低かった。本授業ではこの部分が導入に相当するため、教育心理学など隣接学問を援用する等工夫を行ったが、興味関心の点で工夫の余地があると考える。教師の立場から一旦離れて教育現象を理解するアプローチに慣れてもらうため、これまで以上に事例検討や統計データとの照合など、先入観を問い直す具体的教材を工夫したい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	同じ授業で栄養学科とならんで看護学科の成績が特に不良であった原因がどこにあるのかを考える必要がある。客観的データではないが、授業中に学科の専門教科と思われる勉強をしている者がいることから、学科の授業について行けないしわ寄せが見られているのか、学生にとっての教職課程の意味が成績のよい学科と異なっているのかといったことが予想される。 いずれにせよ、学修動機に課題が残る結果であったことを踏まえ、より授業に集中してもらえるような教材の工夫とともに、本授業の内容を通じて教職の意義を考えてもらう機会を作りたい。

2175000

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	一期﨑　直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	学校保健教育法は、養護教諭免許状取得に必修の科目である。学校保健を既習し、学校における保健教育（保健学習・保健指導）について理解は進んでいる。養護教諭の職務の一つとして、保健学習や保健指導の授業実践が現在求められている。しかし、学生の小中高等学校での経験知として、養護教諭が授業を実践するという認識は低いことが多い。そのため、教科教育としての保健学習の授業を行うことに対する意欲は個人差が大きいことが課題の1つにあげられる。今回、学生は「資格取得に必要である」と「関心のある内容である」と答えており、意欲的であったと考えられる。既習科目の中で、この授業との関連を伝えてきたこともその要因の一つに挙げられる。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された		やや達成された			達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績は全体を通して「達成された」、目標別には、思考判断「やや達成された」と技能表現「達成された」であった。ほぼ理想的レベルまで達した。 「学習到達度の自己評価」は、10項目中2項目「専門分野について学びを深めたいと意見をもつことができた」「職業選択の参考になった」が「かなりそうだと思う」で，他の7項目は「わりにそうだと思う」で「まあまあそうだと思う」が1項目であった。 「学習量の評価」についても，予習・復習を行なうだけでなく、演習をおこなうために「自主学習に取組んだ」という結果に表れている。 「学修のための情報利用」としては、予習復習が必要なためにシラバスも活用され、「図書館，インターネット利用」予習復習で使用されている結果となった。 目標別の思考判断の「やや達成された」より技能表現の「達成された」が高かった。思考判断については、指導案作成の経験が少ないことがその理由と考える。技能表現については、演習を多く取り入れ自己評価を基にした振り返りを繰り返していったことが、最終的な模擬授業において技能表現が「達成された」の結果につながったと考える。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	①CP，カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は看護学科教職課程の養護教諭免許状取得に必修の科目である。教育方法論既習語が望ましいが、3年後期より看護実習が始まるという看護学科のカリキュラム上、同時進行となっている。 ②DP，行動目標からみての内容的妥当性 「受講動機」として学生が意欲的に参加しており、学生の到達度目標の「職業選択の参考になった」と答えていること、「学習到達度の自己評価」からみて、内容的には妥当であったと考える。しかし、成績評価からみると思考判断に関する達成度がやや低かった。評価表などの事前配付時に思考判断として何を問うているかについて伝えていきたい。 ③まとめ 以上から，内容的妥当性には問題はないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」としては、5項目中、5点が4項目、4点が1項目であった。「学習量の評価」においてもほぼ学生は予習復習に取り組む結果となった。「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」についても活用していた結果が得られた。 しかし、「授業の質の評価」の「説明は理解しやすいものであった」が4点であったことについては、さらに、学生と理解をすすめていけるように改善を図りたい。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今回、養護教諭として保健教育を実践するという学生の意識は高かったこと、基礎的な理解を進めながら演習を多く取り入れたため、技能表現は力をつけることにつながったと考える。思考判断については、基礎的な知識から自己の指導案作成に至る過程についてさらに理解を深めることが課題である。指導案作成に必要な具体的な事例を検討するなど、課題への取り組みを工夫したい。

2175400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	看護学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること，重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し，授業計画にどう活かしたかを，「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は，これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業の実施にあたり、大切にしていること：教科書的に教育相談の基礎知識を与える事も大切である。しかし、それだけではなく、より実践的な内容の授業にしたかったので、私がスクールカウンセラーという仕事を通して学んだ事、子どもや保護者の現状、現場職員の様子などを伝えるように心がけた。 したがって、演習問題の中に事例も多く含み、講義を聞くだけの授業ではなく、「考えさせる」授業を行った。

4. 学生の目標達成状況について

	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は，該当する場合のみご記入ください。	達成された	達成された				達成された

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として，成績（トータルの成績，行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.5～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「新聞を読むようになった」 「詳細な内容を調べるようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もおり、教育相談ついてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。 思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。

5. DP，CP，カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP，CP，カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」，自由記述の意見など	受講動機を見ると、資格取得の為に必要であると回答している生徒がほとんど（76.9～90.9%）である。そのことからも、この講義の重要性が伺える。いじめや不登校、非行問題等、学校内では様々な問題が起こっており、養護教諭を目指す学生はこの講義を受ける事によって、学校の現状を知ることができるように工夫した。以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6．授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また，学生からの意見については，必要に応じて，こちらに回答をお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館，インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかではなかった」という項目が、平均点3.5程度と低かったので、特にテストについては明確に学生へ提示しようと思う。模擬テストなども作成する予定である。また、自由記述の中に担当教員への意見として、「実際にあった事柄を聞けて教育の難しさを感じることができた」とあるが、確かに教育は難しいものであるが、それ以上に楽しさもあると思うので、その教育の楽しさについても学生に学んでもらいたいと思った。次回は、そのような事例も盛り込んだ講義内容にしようと思う。

7．総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育相談の授業では①基礎知識の獲得、②応用力（事例解決の思考判断）、また③実技（カウンセリング能力）を学ばなければならない。受講する学生が多いので③の実技については思う様に時間が取れていないのが現状である。次年度は、カウンセリング能力を向上させるために、ロールプレイやカウンセリングの練習の時間も作りたいと思う。